

2019 年度修士論文

オリンピックの空手日本代表決定後の強化・運営策について
- 所属チームの強化参画により復活した日本柔道をモデルとして -

What should Japan Olympic Karate Team do About 2020 Tokyo Olympic
the Period Expires in 120days?
Modeled on the Revival of Japan Judo by the Collaboration with Their Team

早稲田大学大学院スポーツ科学科 スポーツ科学専攻
トップスポーツマネジメントコース 5019A314-7

松下尚道

Naomichi Matsushita

研究指導教員 平田竹男 教授

目次

第1章 はじめに	1
第1節 オリンピックで採用された空手.....	1
第1項 空手の種目	1
第2項 空手のオリンピック出場権付与と選考.....	4
第2節 空手の競技連盟	5
第1項 W K F	5
第2項 (公財) 全日本空手道連盟	7
第3項 全空連ナショナルチーム	8
第3節 世界空手道選手権大会	9
第1項 日本ナショナルチームの直近の戦績.....	12
第4節 他競技の調査	12
第1項 柔道の復活.....	13
第2項 空手と柔道のジュニア期における成績比較.....	13
第5節 先行研究のまとめ.....	14
第6節 目的.....	14
第2章 研究方法	15
第1節 空手の2018年までと2019年以降の強化・運営策、組織体制に関する調査	15
第1項 インタビューの調査対象.....	15
第2項 文献調査.....	15
第2節 柔道の2012年時と2013年以降の強化・運営策、組織体制、2016年のオリンピック直前期の強化・運営策に関する調査	15
第1項 インタビューの調査対象.....	15
第2項 文献調査.....	16
第3節 研究日時	16
第4節 倫理的配慮.....	16
第3章 結果.....	17
第1節 代表決定後オリンピック開催までの120日間のナショナルチームの強化・運営策	17
第1項 ナショナルチーム編成.....	17
第2節 柔道のリオオリンピック直前の対応	18
第1項 所属との強化連携.....	18
第2項 オリンピック直前120日間の具体的計画	18

第3節 空手の強化体制	22
第1項 空手の強化委員会	22
第2項 空手の2018年の事業計画	23
第3項 空手のナショナルチームの監督、コーチ等スタッフ体制	23
第4項 空手の強化体制に関する評価	28
第5項 空手の所属との強化連携に関するインタビュー	28
第4節 柔道の強化体制	29
第1項 柔道の強化委員会	29
第2項 柔道の2019年の強化計画	30
第3項 柔道のナショナルチームの監督、コーチ等スタッフ体制	30
第4項 柔道の強化体制に関するインタビュー	33
第5項 柔道の所属との強化連携に関するインタビューと文献調査	33
第5節 リオオリンピック代表決定後に関する担当コーチインタビュー	35
第1項 リオオリンピック男子柔道で金メダルを獲得した担当コーチ	35
第2項 所属との強化連携について	36
第6節 柔道と空手の比較	39
第4章 考察	41
第1節 ナショナルチームと所属チームの強化連携について	41
第2節 直前120日の強化連携に関して	42
第3節 研究の限界	42
第5章 結論	43
謝辞	44
引用文献	45

図表目次

表 1	オリンピックで行われる組手競技のルール概要.....	2
表 2	オリンピックで行われる形競技のルール概要	3
表 3	W K F の定める形リスト	4
表 4	W K F が主催する国際大会.....	6
表 5	全空連の主な年表	8
表 6	世界空手道選手権の各国のメダル獲得数.....	9
表 7	2018 年世界選手権のメダルテーブルとオリンピック階級のメダル数.....	12
表 8	柔道の所属先との強化連携.....	18
表 9	柔道男子のリオオリンピック直前 120 日の事業.....	19
表 10	柔道男子のリオオリンピック直前 120 日の事業内容.....	19
表 11	柔道女子のリオオリンピック直前 120 日の事業.....	21
表 12	柔道女子のリオオリンピック直前 120 日の事業内容.....	21
表 13	全柔連ナショナルチームの国際大会への派遣.....	22
表 14	2018 年の空手の事業計画.....	23
表 15	2016 年の柔道の事業計画.....	30
表 16	金丸コーチ作成の個別分散合宿の心得.....	38
表 17	柔道と空手の強化連携事業の比較.....	40
図 1	全空連の組織図.....	8
図 2	オリンピックと世界選手権における柔道のメダル獲得推移（□がオリンピック）	13
図 3	複数担当制	17
図 4	1 対 1 担当制	18
図 5	空手の強化委員会	23
図 6	2015 年までの空手の強化体制	24
図 7	2017, 18 年の空手の強化体制.....	25
図 8	2020 年の東京オリンピックに向けた空手男子の強化体制	26
図 9	2020 年の東京オリンピックに向けた空手女子の強化体制	27
図 10	2020 年の東京オリンピックに向けた空手男子形の強化体制.....	28
図 11	柔道の強化委員会	30
図 12	リオオリンピック代表決定後の男子柔道強化体制	32
図 13	リオオリンピック代表決定後の女子柔道強化体制	33

第1章 はじめに

2016年8月リオデジャネイロで開催されたIOC総会にて、2020年東京オリンピックにおいて初めて空手競技が開催されることに決まった。筆者は（公財）全日本空手道連盟（以下=全空連）ナショナルチームにおいて強化プランニングディレクターの役職を拝命し、日本の勝利に向けての強化の課題解決を担当している。

空手界にとってオリンピックは初めての経験である。オリンピックで成果を出すことは世界選手権で成果を出すことより難しいと言われており、これからの残された日程の中で、どのような強化策を組み、運用していくかは大きな課題である。空手は個人種目であり、球技の代表チームと異なりナショナルチームと所属チームの強化内容の切り分けや連携が難しい。オリンピック日本代表決定後の両者の有機的関係が2020年東京オリンピックでの成功の鍵となる。

第1節 オリンピックで採用された空手

空手は沖縄を発祥とした武道であるが、世界空手連盟（WKF）の加盟国は今では199の国と地域になっている。WKFには空手の流派である松濤館流、糸東流、剛柔流、和道流、小林流、上地流、劉衛流、極真会館など、多くの流派で育った選手が参加している。

このように、様々な流派が集約されて成り立っているWKFは、様々な歴史を経てWKFとしての空手競技ルールを決定してきた。これがオリンピックに採用された空手競技である。

オリンピックで採用された空手は、組手と形の2種目で、組手は体重別に3階級、形は体重等の区分はない。それぞれに男女があり、計8種目がオリンピックでは競われる。

WKFは1970年来、原則2年に一度世界空手道選手権大会を開催しているが、現在の組手競技は男女それぞれ体重別に5階級で行われている。また団体種目も行われるなど、オリンピックとはレグレーションを異にしている（世界空手道選手権の詳細は6ページ）。

種目の詳細は以下の通りである。

第1項 空手の種目

組手は、相対する2人の選手が、決められた部位に突き・蹴り・打ちを早く、正確に、力強くコントロールして極（き）める対人競技である。全空連競技規定では、「空手競技はスポーツであり、それ故、最も危険とされる技は禁止され、技は全てコントロールされたものでなければならない。（中略）従って、相手を負傷させた技に対してはウォーニング、またはペナルティが課せられる。」とされる。

形は、伝統的技法の単独演武で、技の正確さ、力強さやスピード・リズム・バランス・極めを競う競技である。全空連競技規定では、「形はダンスや演劇ではない。伝統的な価値、道義を固守するべきである。格闘技の点から現実的でなければならない、技の集中力、力強さ、

潜在効果を示す必要がある。優雅さ、リズム、バランス以外に力強さ、パワー、スピードも演武しなければならない。」¹とされる。

1. 組手

オリンピックで開催される組手は、10メートル四方のコート内で行われ、試合時間は男女とも3分間である。体重別の区分は男性67kg級・75kg級・75kg超級、女性55kg級・61kg級・61kg超級のそれぞれ3階級である。

東京オリンピックでは各階級男女とも10人が出場し、5人ずつの総当たり戦での予選後、両プールの上位2名が準決勝に進み、勝者が決勝へ、敗者は3位決定戦に進み、メダル獲得者が決まっていく。

概略を表1に示す。

表1 オリンピックで行われる組手競技のルール概要

試合場	10m×10mのコート（海外では tatami と呼ばれる）で行われる。
時間	男子3分、女子3分
階級	男女3階級
人数	各階級10名
防具	拳、脛、足甲、腹部、下腹部にそれぞれ安全具を着用
審判	審判はレフェリー1人とジャッジ4人。レフェリーは反則を判断し、ジャッジが有効技を判断する。ジャッジの旗が2本以上上がればポイントとなる。
勝敗	組手は以下を基準に、相手の得点部位を捉えた場合に加点される。 ①良い姿勢 ②スポーツマンらしい態度 ③気力 ④残心 ⑤適切なタイミング ⑥正確な距離
得点部位	攻撃部位は頭部、顔面、頸部、腹部、胸部、背部、わき腹の7箇所である。
ポイント	試合時間内に8ポイントの差がつくと、その場で勝者が決まる。差がつかない場合は、旗の多数決による判定となる。 1ポイント：7つの攻撃部位に極めた、突きと打ち。 2ポイント：中段（腹部、胸部、背部、わき腹）への蹴り。 3ポイント：上段（顔面、頭部、頸部）への蹴り。投げられた、又は自ら倒れた相手に極めた技。
反則	コントロールされていない技に対する反則（カテゴリー1）と、場外や逃避行動などに対する反則（カテゴリー2）があり、程度や残り時間により反則の大小が決まる。それぞれの反則が4ポイント貯まると反則負けとなる。

2. 形

オリンピックで開催される形は、組手と同じ 10 メートル四方のコート内で行われる採点競技である。

東京オリンピックでは組手と同じく、男女とも 10 人が出場し、5 人ずつの 2 グループでの予選を行う。それぞれのグループで選手は 2 回演武を行い、その平均点が計算され、上位 3 名が次の形を演武する。それぞれのグループで 3 回目の形の点数が最も高い選手同士で決勝戦が行われる。それぞれのグループで 2 位の選手は他のグループの 3 位と、3 位の選手は他のグループの 2 位と 3 位決定戦を行い、メダル獲得者が決まっていく。演武者は W K F が選定した 102 の形リストから選択して行うが、一回の大会で同じ形を繰り返すことはできず、勝ち上がる毎に違う形が必要となる。

概略を表 2 に示す。

表 2 オリンピックで行われる形競技のルール概要

階級	なし
人数	男女各10名
基準	【テクニカルポイント (70%)】 ・ 立ち方・技・流れるような動き・タイミング・正確な呼吸法 ・ 極め・一致性:流派の基本に一貫性があるか 【アスレチックポイント (30%)】 ・ 力強さ・スピード・バランス
勝敗	1 人の選手の形演舞に対し、7 人の審判がパッド上でその選手の形に「テクニカルポイント」と「アスレチックポイント」をつける。「テクニカルポイント」と「アスレチックポイント」それぞれで上位点数 2 つと下位点数 2 つを除いた真ん中の 3 つの点数を合計し、それぞれの合計点を、「技術点」は 70%に、「競技点」は 30%に案分した合計点の大小で勝敗を決める。

表 3 W K F の定める形リスト²

1	Anan	35	Jiin	69	Passai
2	Anan Dai	36	Jion	70	Pinan Shodan
3	Ananko	37	Jitte	71	Pinan Nidan
4	Aoyagi	38	Juroku	72	Pinan Sandan
5	Bassai	39	Kanchin	73	Pinan Yondan
6	Bassai Dai	40	Kanku Dai	74	Pinan Godan
7	Bassai Sho	41	Kanku Sho	75	Rohai
8	Chatanyara Kusanku	42	Kanshu	76	Saifa
9	Chibana No Kushanku	43	Kishimoto No Kushanku	77	Sanchin
10	Chinte	44	Kousoukun	78	Sansai
11	Chinto	45	Kousoukun Dai	79	Sanseiru
12	Enpi	46	Kousoukun Sho	80	Sanseru
13	Fukyugata Ichi	47	Kururunfa	81	Seichin
14	Fukyugata Ni	48	Kusanku	82	Seienchin (Seiyunchin)
15	Gankaku	49	Kyan No Chinto	83	Seipai
16	Garyu	50	Kyan No Wanshu	84	Seiryu
17	Gekisai (Geksai) 1	51	Matsukaze	85	Seishan
18	Gekisai (Geksai) 2	52	Matsumura Bassai	86	Seisan (Sesan)
19	Gojushiho	53	Matsumura Rohai	87	Shiho Kousoukun
20	Gojushiho Dai	54	Meikyo	88	Shinpa
21	Gojushiho Sho	55	Myojo	89	Shinsei
22	Hakucho	56	Naifanchin Shodan	90	Shisochin
23	Hangetsu	57	Naifanchin Nidan	91	Sochin
24	Haufa (Haffa)	58	Naifanchin Sandan	92	Suparinpei
25	Heian Shodan	59	Naihanchi	93	Tekki Shodan
26	Heian Nidan	60	Nijushiho	94	Tekki Nidan
27	Heian Sandan	61	Nipaipo	95	Tekki Sandan
28	Heian Yondan	62	Niseishi	96	Tensho
29	Heian Godan	63	Ohan	97	Tomari Bassai
30	Heiku	64	Ohan Dai	98	Unshu
31	Ishimine Bassai	65	Oyadomari No Passai	99	Unsu
32	Itosu Rohai Shodan	66	Pachu	100	Useishi
33	Itosu Rohai Nidan	67	Paiku	101	Wankan
34	Itosu Rohai Sandan	68	Papuren	102	Wanshu

第2項 空手のオリンピック出場権付与と選考

2020 オリンピックの空手競技種目では、各国各種目への出場選手は1名と限定されている。このルールを踏まえながら、5段階に分けて選考が行われる。1段階目の選考は、2020年4月6日時点のオリンピック・スタンディングの各種目上位4名である。ただし、同じ国の選手が複数名含まれる場合には、最上位者のみに付与される（それ以外の選手は出場できない）ため、5位以下の選手が繰り上げで出場権を得ることができる。

次に、残りの6人の決め方は、2段階目として3人を予選大会で選考する。この予選大会は、2020年5月8日～10日パリで開催される予定である。これには、各種目でオリンピック・スタンディングでの出場が決まっていない国から1名の選手だけが参加できる。この大会の1・2・3位に入賞した選手（計3名）にオリンピック出場権が付与される。予選大会は

トーナメントで、3 位決定戦が行われる予定である。

3 段階目は、開催国枠 1 名である。第 1 段階、第 2 段階が終わった時点で開催国＝日本の選手がいない階級には、オリンピック・スタンディング 50 位以内でかつ、日本の中でもっともランキングの高い者に出場権が与えられる。

ここまでで 10 人中 7 名（開催国枠がとれなかった場合は 6 名）が確定である。残りの 3～4 名は、4 段階目の大陸代表枠（各大陸空手連盟の指名）または 5 段階目の三者委員会招待枠（IOC・国内オリンピック委員会連合：ANOC・オリンピック夏季大会競技団体連合：ASOIF の三者）で決まる。4 段階目、5 段階目で指名される人数は 2～3 名であるが、それは最終的には W K F による調整で決定される予定である。³

※オリンピック・スタンディングは、W K F が開催する 2018 年 1 月以降の世界空手道選手権、プレミアリーグ、シリーズ A 大会に参加した選手の順位に応じて加算される。

第 2 節 空手の競技連盟

空手の国際競技連盟は、WORLD KARATE FEDERATION = W K F である。これに ASIAN KARATE FEDERATION (A K F)、EUROPEAN KARATE FEDERATION (E K F)、AFRICAN KARATE FEDERATION (U F A K)、OCEANIAN KARATE FEDERATION (O K F)、PAN AMERICAN KARATE FEDERATION (P K F) の 5 大陸連盟が加盟している。A K F は 44 の国と地域、E K F は 54 の国と地域、U F A K は 50 の国と地域、O K F は 12 の国と地域、P K F は 39 の国と地域からなり総合計 199 の国と地域が加盟している現状にある。⁴

第 1 項 W K F

1970 年 10 月 11 日、東京プリンスホテル・プロビデンスルームに 33 カ国の役員代表が集まり会議が行われ、世界空手連合 (W. U. K. O=後の W K F) が発足、以下 4 点が決議された。
①世界空手連合宣言：「われら空手道の正しい世界的発展を志すもの一同は、人類の平和と進歩のために空手道を活用し、すぐれたる精神と、すぐれたる肉体の融合を目標として、われらの努力を結集することに決定した。よってわれら一同は、それぞれの所属する組織を代表し、この宣言に同意したもので、ここに世界空手連合 (W. U. K. O) という国際組織を設けるものである。」

②名称：世界空手連合 (W. U. K. O)

③事務局：(財：全空連に委嘱)

④第 2 回世界選手権の開催場所と日程：

1972 年 4 月 20 日、パリで 32 カ国の役員代表が集まり、第二回世界空手連合会議が行われた。笹川良一全空連会長が W. U. K. O の会長に、江里口栄一氏が事務総長に決定した。⁵

この W. U. K. O が 1985 年 IOC に承認されたが、1986 年 7 月 29 日に行われた IOC プログラム委員会から、「空手はオリンピック種目として承認を受けるにふさわしいスポーツであるが、空手の環境を整備する必要があるので延期する」と通達された。⁶1993 年、IOC 提案の

下、W.U.K.OをWKF（世界空手連盟）と名称変更を行った。この組織が再度1999年にIOCに承認された。

WKF事務所は、当代会長の居住する国に拠点を置くことになっている。1992年からフランス、そして1998年よりはアントニオ・エスピノス会長の母国であるスペインに置かれた。また、2014年から事務総長（ジェネラル・セクレタリー）に日本の奈藏稔久氏が就任している。⁷

WKFが現在開催しているシニア（18歳以上）の国際大会は2年に1度開催されるWORLD KARATE CHAMPIONSHIPS（世界空手道選手権大会）と2019年に年間7回開催されたプレミアリーグ、年間4回開催されたシリーズAである。

世界空手道選手権大会では16種目が行われる。オリンピックで行われる組手と形の個人競技種目に加えて、男子は5人、女子は3人の体重無差別で競われる団体組手、男女とも3人で同時演武する団体形が実施される。また、組手競技はオリンピック階級が男女3階級なのに対して、世界空手道選手権大会では5階級で実施される。各個人戦のルールは、オリンピックと同じルールで実施される。団体形決勝戦では、3人のメンバーで形の意味を殺陣のように表現した「分解」が行われる。

プレミアリーグ、シリーズAも世界空手道選手権と同じく、組手は男女5階級と団体形が行われる。団体組手は実施されない。

概略を表4に示す。

表4 WKFが主催する国際大会

世界空手道選手権大会（2年に1度、世界各国の持ち回りで開催）16種目	
組手	男子個人戦（60kg級、67kg級、75kg級、84kg級、84kg超級） 女子個人戦（50kg級、55kg級、61kg級、68kg級、68kg超級） 男子団体組手（体重無差別の5人制）先に3勝したチームの勝利 女子団体組手（体重無差別の3人制）先に2勝したチームの勝利
形	男子個人形 女子個人形 男子団体形（3人で同時に演武する） 女子個人形（3人で同時に演武する）
参加資格	個人種目は各種目各国1名がエントリー 団体戦は各種目各国1チームがエントリー
プレミアリーグ（年間7大会開催）14種目	
組手	男子個人戦（60kg級、67kg級、75kg級、84kg級、84kg超級） 女子個人戦（50kg級、55kg級、61kg級、68kg級、68kg超級）
形	男子個人形 女子個人形

	男子団体形（3人で同時に演武する） 女子個人形（3人で同時に演武する）
参加資格	大会開催の2ヶ月前からエントリーがスタート。 第1段階(フェーズ1):NF からの申込に限定(最初の15日間)。各 NF が WKF ランキング50位以内の選手を各種目につき最大2名まで申込できる。 第2段階(フェーズ2):自由申込(次の15日間)世界ランキング50位以内の選手が申込できる。ただし、各国、各種目につきフェーズ1も含め最大2名まで。 第3段階(フェーズ3):自由申込(次の15日間)。世界ランキング100位以内の選手が、各種目につき最大64名まで申し込める。
シリーズ A（年間4大会開催）14種目	
組手	男子個人戦（60kg 級、67kg 級、75kg 級、84kg 級、84kg 超級） 女子個人戦（50kg 級、55kg 級、61kg 級、68kg 級、68kg 超級）
形	男子個人形 女子個人形 男子団体形（3人で同時に演武する） 女子個人形（3人で同時に演武する）
参加資格	誰でも参加できる

第2項 （公財）全日本空手道連盟

全空連は「わが国におけるアマチュア空手界を統轄し、代表する団体として、空手道の健全な発達とその普及をはかり、もって国民の身心の錬成に寄与すること」⁸を目的として、1964年に設立された。現在では、47都道府県連盟と、それを束ねる9つの地区協議会に加え、次の団体によって構成されている。全日本実業団選手権を開催する全日本実業団空手道連盟、全日本学生空手道選手権を主催する一般社団法人全日本学生空手道連盟、インターハイを開催する高体連空手道専門部などの競技団体、さらに、協力団体として剛柔流や和道流など6つの流派が位置付けられている。この6つの流派以外の流派や会派の空手愛好者は、都道府県連盟を通して全空連に加盟することができる。

1969年1月13日に財団法人認可に伴い、常務会、技術委員会、専門委員会など付属期間が設置された。1969年10月10日、日本武道館にて「第1回全日本空手道選手権大会」を開催。個人戦45人と、団体戦30チームが参加した。1972年に（財）日本体育協会に加盟し、1981年に滋賀国体から正式に参加。2001年からは、日本スポーツマスターズなどにも参加した。また2015年4月15日にはルールの違いから長年交流の無かった極真会館が友好団体となった。⁹

主な年表概略を表5に、組織図を図1に示す。

表 5 全空連の主な年表

1964 年 10 月 1 日	昭和 39 年	全日本空手道連盟（JKF）設立
1969 年 1 月 13 日	昭和 44 年	文部省より財団法人認可取得
1969 年 10 月 10 日	昭和 44 年	第 1 回全日本空手道選手権大会の開催
1970 年 10 月 9 日	昭和 45 年	世界空手連盟（WUKO）に加盟
1970 年 10 月 9 日～14 日	昭和 45 年	第 1 回世界空手道選手権大会の開催
1972 年 3 月 29 日	昭和 47 年	（財）日本体育協会に加盟
1977 年 12 月 3 日～4 日	昭和 52 年	第 4 回世界空手道選手権大会の開催
1978 年 9 月 23、24 日	昭和 53 年	長野国体にてデモンストラレーション参加
1981 年 9 月 13～16 日	昭和 56 年	滋賀国体より空手道競技国体正式種目
2001 年 8 月 5 日	平成 13 年	第 1 回全日本少年少女空手道大会の開催
2001 年 9 月 22～25 日	平成 13 年	日本スポーツマスターズへ参加
2005 年 9 月 22 日	平成 17 年	第 1 回全日本障害者空手道選手権大会の開催
2008 年 11 月 13～16 日	平成 20 年	第 19 回世界空手道選手権大会の開催
2010 年 6 月 5 日	平成 22 年	空手道憲章およびこども空手道憲章を制定
2011 年 11 月	平成 23 年	日本空手道会館竣工
2012 年 4 月 1 日	平成 24 年	内閣府の認可を受け、公益財団法人に移行

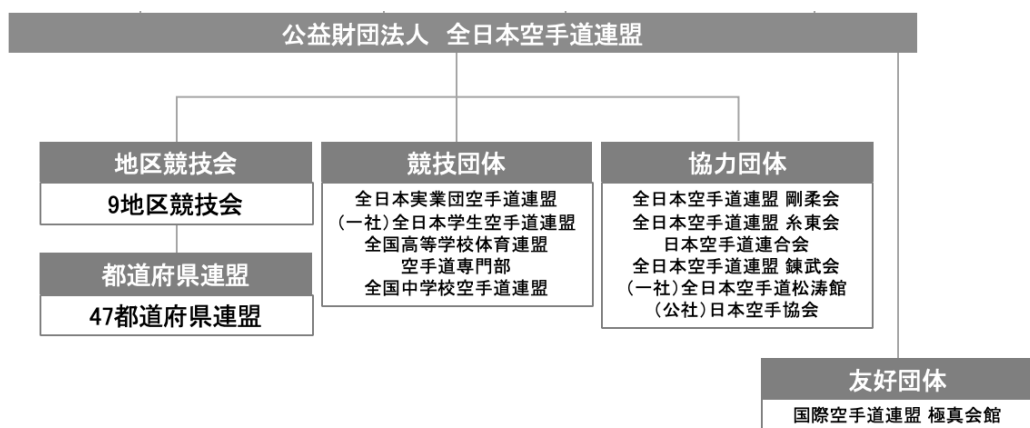


図 1 全空連の組織図

第3項 全空連ナショナルチーム

全空連では、1970 年に東京で開催された第 1 回世界空手道選手権大会に向けて最初の日本選手団を組織した。空手新聞によると、都道府県連盟や流派から選ばれた 74 名の選手が選考会で試合を行い、30 人が選ばれたとされる。¹⁰

1972 年の第 2 回世界空手道選手権大会に向け、第一次選考で 29 名、強化合宿と第二次選考を経て 11 人を第三次強化選手として選抜。ここから日本代表選手 7 人が選出された。¹¹

第3回、第4回世界選手権に向けては、第2回大会と同じく世界選手権開催年に実施した選考過程で日本代表を決定した。しかし、東京で開催された第4回大会では、日本は組手でメダルを獲得できなかった。

1978年5月16日、全空連はナショナルチームの強化育成を目的とした、第一回競技力向上委員会を開催。同年7月2日に第一次強化選手選考会を実施。組手27名、形5名が選拔され、11月に開催された第3回アジア太平洋大会に向けた強化合宿を7月、8月、10月、11月に実施した。この年から強化選手が毎年選拔されることになった。¹²

1979年4月7日、全空連強化選手選考会が日本武道館小武道場で開催され、組手25名、形6名が選拔された。この年から強化を目的とした合宿がスタートし、6月、7月、10月、11月、1980年2月と計5回の強化合宿を行った。¹³以降、2017年までこの方法で選手選考が行われた。2018年、2019年は選考会を廃止。各階級世界ランキング50位以内が強化選手として指定され、1月から強化合宿をスタートした。

第3節 世界空手道選手権大会

2018年、24回目となる世界空手道選手権大会がマドリードで開催された。日本では過去3回（第1回、第4回、第19回）の世界空手道選手権大会を日本武道館で開催した。スペインでは過去4回開催。第5回、第16回、第24回がマドリード、第11回がグラナダであった。フランス、メキシコ、ドイツも過去2回ずつ開催している。また2020年11月17～22日にはドバイで第25回大会が開催される予定である。2012年以降は参加国が100カ国を超え、2016年以降は参加人数が1000人を超えている。

これまでの成績を見ると、日本が過去198個（金90銀52、銅56）のメダルを獲得し1位、フランスが167個（金55、銀45、銅67）のメダル獲得で2位、イギリスが76個（金29、銀22、銅25）の3位、スペインが117個（金21、銀27、銅69）の4位、イタリアが108個（金19、銀33、銅56）の5位となっている。以降は、6位トルコ、7位オランダ、8位イラン、9位ドイツ、10位アゼルバイジャンとなっている。過去のメダル獲得数を表6に示す。

表6 世界空手道選手権の各国のメダル獲得数

	2018	2016	2014	2012
	マドリード	リンツ	ブレーメン	パリ
	1117人/140カ国	1024人/118カ国	887人/116カ国	990人/116カ国
1	日本 (金4銀4銅2)	日本 (金6銀2銅1)	日本 (金3銀2銅5)	フランス (金7銀2銅4)
2	イラン (金2銀1銅4)	フランス (金3銀2銅4)	エジプト (金3銀2銅1)	日本 (金4銀1銅6)
3	フランス	イラン	フランス	イタリア

	(金 2 銀 0 銅 0)	(金 3 銀 0 銅 3)	(金 2 銀 3 銅 3)	(金 1 銀 3 銅 2)
4	スペイン (金 1 銀 3 銅 2)	エジプト (金 1 銀 2 銅 2)	トルコ (金 2 銀 0 銅 3)	トルコ (金 1 銀 2 銅 3)
5	イタリア (金 1 銀 1 銅 5)	アゼルバイジャン (金 1 銀 1 銅 1)	ドイツ (金 1 銀 3 銅 3)	イラン (金 1 銀 1 銅 1)

	2010	2008	2006	2004
	ベオグラード	日本	タンペレ	モンテレー
	875 人/88 カ国	888 人/97 カ国	766 人/81 カ国	582 人/79 カ国
1	セルビア (金 3 銀 0 銅 1)	日本 (金 4 銀 1 銅 4)	イタリア (金 5 銀 1 銅 1)	日本 (金 4 銀 1 銅 0)
2	イタリア (金 2 銀 4 銅 1)	フランス (金 4 銀 2 銅 3)	日本 (金 2 銀 3 銅 4)	イギリス (金 2 銀 1 銅 0)
3	日本 (金 2 銀 2 銅 3)	イタリア (金 2 銀 1 銅 4)	スペイン (金 2 銀 2 銅 2)	イタリア (金 2 銀 0 銅 2)
4	ヴェネズエラ (金 2 銀 0 銅 0)	アゼルバイジャン (金 2 銀 0 銅 0)	フランス (金 2 銀 1 銅 2)	アメリカ (金 2 銀 0 銅 2)
5	フランス (金 1 銀 3 銅 1)	ロシア (金 1 銀 1 銅 2)	イラン (金 2 銀 0 銅 2)	トルコ (金 2 銀 0 銅 1)
		トルコ (金 1 銀 1 銅 2)		

	2002	2000	1998	1996
	マドリード	ミュンヘン	リオ	サンシティ
	751 人/84 カ国			
1	フランス (金 3 銀 3 銅 5)	フランス (金 6 銀 6 銅 4)	フランス (金 5 銀 4 銅 2)	イギリス (金 5 銀 1 銅 1)
2	スペイン (金 3 銀 2 銅 2)	日本 (金 4 銀 2 銅 4)	日本 (金 5 銀 1 銅 2)	日本 (金 4 銀 4 銅 3)
3	日本 (金 3 銀 1 銅 1)	ドイツ (金 2 銀 2 銅 2)	トルコ (金 2 銀 0 銅 3)	フランス (金 3 銀 2 銅 2)
4	ユーゴスラビア (金 2 銀 0 銅 1)	スペイン (金 1 銀 3 銅 3)	イギリス (金 1 銀 2 銅 3)	スペイン (金 1 銀 2 銅 4)
5	アメリカ (金 2 銀 0 銅 0)	セネガル (金 1 銀 1 銅 0)	スペイン (金 1 銀 1 銅 6)	ロシア (金 1 銀 1 銅 10)

	1994	1992	1990	1988
	コタキナバル	グラナダ	メキシコシティ	カイロ
1	日本 (金 7 銀 2 銅 2)	スペイン (金 4 銀 2 銅 5)	日本 (金 6 銀 3 銅 3)	日本 (金 7 銀 3 銅 4)
2	フランス (金 4 銀 3 銅 4)	日本 (金 4 銀 2 銅 3)	フランス (金 4 銀 1 銅 2)	イギリス (金 3 銀 4 銅 1)
3	イタリア (金 1 銀 3 銅 0)	イギリス (金 4 銀 1 銅 0)	イギリス (金 2 銀 2 銅 3)	オランダ (金 2 銀 2 銅 1)
4	スペイン (金 1 銀 0 銅 6)	オーストラリア (金 2 銀 0 銅 0)	イタリア (金 1 銀 4 銅 1)	フランス (金 2 銀 1 銅 4)
5	フィンランド (金 1 銀 0 銅 2)	トルコ (金 1 銀 2 銅 1)	ノルウェイ (金 1 銀 1 銅 0)	イタリア (金 1 銀 2 銅 6)

	1986	1984	1982	1980
	シドニー	マーストリヒト	台北	マドリード
1	日本 (金 5 銀 7 銅 2)	イギリス (金 4 銀 1 銅 3)	日本 (金 6 銀 2 銅 4)	日本 (金 4 銀 5 銅 2)
2	イギリス (金 2 銀 3 銅 2)	日本 (金 3 銀 2 銅 2)	イギリス (金 3 銀 1 銅 4)	スペイン (金 3 銀 1 銅 7)
3	フランス (金 2 銀 2 銅 1)	フランス (金 2 銀 1 銅 4)	フランス (金 1 銀 2 銅 4)	フランス (金 1 銀 1 銅 2)
4	フィンランド (金 2 銀 0 銅 2)	オランダ (金 2 銀 1 銅 3)	フィンランド (金 1 銀 2 銅 0)	アメリカ (金 1 銀 1 銅 1)
5	オランダ (金 2 銀 0 銅 1)	スウェーデン (金 1 銀 1 銅 0)	オランダ (金 1 銀 0 銅 2)	イタリア (金 1 銀 0 銅 1)

	1977	1975	1972	1970
	東京	ロングビーチ	パリ	東京
1	オランダ (金 2 銀 0 銅 0)	日本 (金 1 銀 2 銅 0)	フランス (金 1 銀 0 銅 1)	日本 (金 2 銀 1 銅 1)
2	イギリス (金 0 銀 1 銅 0)	イギリス (金 1 銀 0 銅 0)	ブラジル (金 1 銀 0 銅 0)	カナダ (金 0 銀 1 銅 0)
3	西ドイツ (金 0 銀 1 銅 0)	ドミニカ (金 0 銀 0 銅 1)	イギリス (金 0 銀 1 銅 1)	フランス (金 0 銀 0 銅 1)
4	フランス	オランダ	イタリア	アメリカ

	(金 0 銀 0 銅 1)	(金 0 銀 0 銅 1)	(金 0 銀 1 銅 0)	(金 0 銀 0 銅 1)
5	イラン (金 0 銀 0 銅 1)		シンガポール (金 0 銀 0 銅 1)	
	中華民国 (金 0 銀 0 銅 1)		ユーゴスラビア (金 0 銀 0 銅 1)	
	スペイン (金 0 銀 0 銅 1)			

第 1 項 日本ナショナルチームの直近の戦績

2018 年 11 月にマドリードで開催された第 24 回世界空手道選手権大会において、全日本ナショナルチームは金メダル 4 つ、銀メダル 4 つ、銅メダル 2 つを獲得し、世界 1 のメダル獲得数を達成した。しかし、来たる東京オリンピックでの全 8 種目金メダル獲得という目標から作成されたマイルストーンに及ばず、今大会の結果を「惨敗」と結論付けた。

しかし、メダル獲得数世界 1 位を達成できた要因は、オリンピックで開催されない男女団体形での 2 つの金メダルが大きく、オリンピック種目における金メダル獲得は女子軽量級と男子個人形の 2 つのみであった。オリンピック種目における銀メダルは男子軽量級組手、女子重量級組手、女子個人形の 3 つ、銅メダルは男子中量級組手の 1 つであり、男子重量級と女子中量級はメダルを獲得できなかった。

表 7 2018 年世界選手権のメダルテーブルとオリンピック階級のメダル数

	国名	金	銀	銅
1	日本	4	4	2
2	イラン	2	1	4
3	フランス	2	0	0
4	スペイン	1	3	2
5	イタリア	1	1	5

2018 年 11 月開催の世界選手権のメダルテーブル



	国名	金	銀	銅
1	日本	2	3	1
2	スペイン	1	1	1
2	イタリア	1	1	1
2	イラン	1	1	1
5	フランス	1		

オリンピック開催階級に当てはめたメダル獲得数

第 4 節 他競技の調査

日本は伝統的に格闘技の国際競技力が高い。柔道は 1964 年の東京オリンピックから男子種目がスタートし、女子種目は 1988 年のソウルオリンピックで公開競技として実施され、1992 年から正式種目として採用された。1964 年の東京オリンピックで中谷雄英が 68kg 級、岡野功が 80kg、猪熊功が 80 超級で金メダルを獲得。以降、2016 年のリオデジャネイロオリンピックまで、参加した全ての大会でメダルを獲得している。日本の過去メダル獲得数は金 39 個、銀 19 個、銅 26 個、計 84 個となっており世界 1 位である。¹⁴

レスリングは 1896 年のアテネオリンピックからグレゴローマンスタイルがスタートし、1904 年から男子フリースタイル、2004 年から女子フリースタイルも始まった。日本は 1932

年のロサンゼルスオリンピックから参加。1952 年のヘルシンキオリンピックにて石井庄八が 57kg 級で金メダル、北野裕秀が 52kg 級で銀メダルをそれぞれ獲得。以降、2016 年のリオデジャネイロオリンピックまで、参加した全ての大会でメダルを獲得している。

第1項 柔道の復活

柔道は、2012 年のロンドンオリンピックで松本薫選手が金メダルを獲得したものの、男子はオリンピック参加以降、初めての金メダル無しとなった。金 1、銀 3、銅 3 という結果は惨敗と語り継がれている。しかし 4 年後の 2016 年のリオオリンピックでは男子全階級でメダルを獲得。男女合計で金 3、銀 1、銅 8 の計 12 個のメダルを獲得し、過去最高の成績を達成した。なぜ、柔道がこのような復活を遂げたのかを研究することは、空手にとっても参考になる。

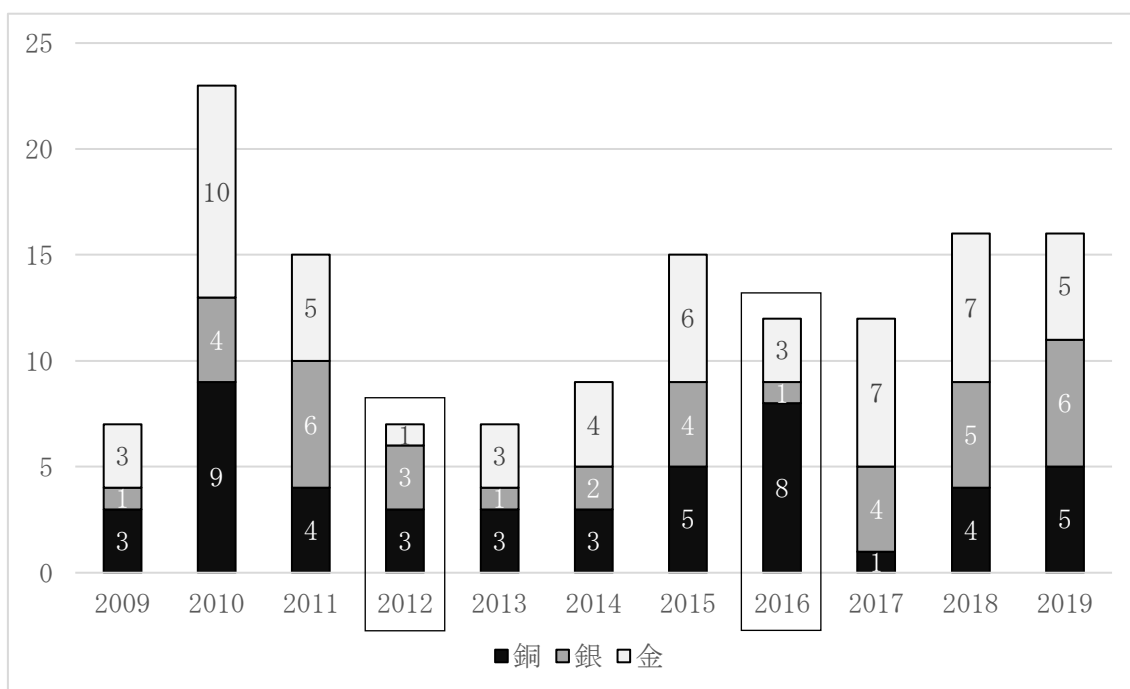


図 2 オリンピックと世界選手権における柔道のメダル獲得推移 (□がオリンピック)

第2項 空手と柔道のジュニア期における成績比較

2013 年～2019 年までのジュニア柔道世界選手権 (15 歳以上、21 歳未満) における男子のメダル獲得平均は 57%となっている。これに対し、シニア (20 歳以上) は 66%と 9%上昇している。一方の空手では、同じく 2013 年～2019 年のジュニア空手道世界選手権 (16 歳以上、20 歳以下) における男子のメダル獲得は 40%であるが、シニア (18 歳以上) では 33%となっており、7%の減少である。このように、シニア期以降国際競技力を上げる柔道と下げる空手とでは、シニア期のナショナルチームの強化システムに影響を与えるなんらかの要因があ

と考えられる。

第5節 先行研究のまとめ

ナショナルチームにおける強化策の先行研究には以下のものがある。鈴木・平田（2018）らはロシア柔道連盟の強化への取り組みを明らかにした。¹⁵植田・平田（2018）らは「ブラジル男子バレーボールが世界で勝つための強化策」で「伯連盟」「代表チーム」「プロクラブ」とも「世界で勝つ」というベクトルをもち、共通した指針で強化している事例を示した¹⁶。また、東野・平田（2011）も、アルゼンチンバスケットボールの強化策について、「クラブ」「リーグ」「連盟」ともに世界へベクトルが向かっていることを明らかにした。¹⁷

しかし、空手においては、オリンピックに向けた強化策や具体的取組みについて参考となる十分な情報はない。したがって、柔道のリオ大会に向けた強化体制がどのようなであったのか、また、それがどのように空手に応用可能なのかを検討することは、空手にとって有用であると考え、本研究に取り組む。

第6節 目的

本研究の目的は、オリンピックの空手日本代表決定後、ナショナルチームが所属チームとの連携を効果的に進めるための具体的な方策を明らかにすることである。

第2章 研究方法

本研究では、上記目的を達成するために、空手の強化策と柔道の強化策について、関係者にヒアリング調査を実施した。オリンピック直前期の強化・運営策と、それを実行するための組織体制について共通点、相違点を整理し、空手のオリンピックナショナルチームの取り組むべきことを検討した。

第1節 空手の2018年までと2019年以降の強化・運営策、組織体制に関する調査

空手の調査対象は、現在の男子組手監督と2018年世界選手権でコーチボックスに入り、現在オリンピックに向けて複数人の選手を担当する男子コーチ、男子監督とした。また、書籍や事業報告書の調査も併せて行った。

第1項 インタビューの調査対象

2018年以前の空手ナショナルチームの取組みと2019年1月以降の取組みについて、インタビューを行った。

- ・空手男子ナショナルチーム林晃監督
- ・空手男子ナショナルチーム今井謙一コーチ

本研究によるインタビュー調査では、上記関係者を対象とし、インタビュー調査を行った。回答内容はICレコーダーに録音して、逐語資料作成後、重要点に着目し抽出した。

第2項 文献調査

文献調査として、これまでの空手ナショナルチームの組織体制や活動記録を調査した。

- ・公益財団法人 全日本空手道連盟の事業報告書調査
- ・雑誌、書籍、インターネットの文献調査

第2節 柔道の2012年時と2013年以降の強化・運営策、組織体制、2016年のオリンピック直前期の強化・運営策に関する調査

柔道の調査対象は、リオオリンピックにおいて担当コーチとしてコーチボックスに入った4人のコーチと、ナショナルチームサポート責任者とした。これらの関係者にインタビューを行うとともに、書籍や事業報告書の調査も行った。

第1項 インタビューの調査対象

2016年リオオリンピックに向けた柔道ナショナルチームの取組みについて、インタビューを行った。

- ・柔道男子ナショナルチーム鈴木桂治コーチ、廣川充志コーチ、金丸雄介コーチ
- ・柔道女子ナショナルチーム松本勇治元コーチ

- ・柔道強化委員会サポート責任者石井孝法委員

本研究によるインタビュー調査では、上記関係者を対象とし、インタビュー調査を行った。回答内容は IC レコーダーに録音して、逐語資料作成後、重要点に着目し抽出した。

第2項 文献調査

文献調査として、これまでの柔道ナショナルチームの組織体制や活動記録を調査した。

- ・公益財団法人 全日本柔道連盟の事業報告書調査
- ・雑誌、書籍、インターネットの文献調査

第3節 研究日時

インタビューは以下の関係者および日程で行い、後日要点をまとめた。

- ・金丸雄介コーチへのインタビュー

日時：2019年11月6日 場所：講道館柔道場 時間：20:00～22:00

日時：2019年12月9日 場所：了徳寺大学体育館師範室 時間：13:00～15:30

日時：2019年12月12日 場所：了徳寺大学体育館師範室 時間：13:00～14:00

- ・廣川充志コーチへのインタビュー

日時：2019年11月6日 場所：講道館柔道場 時間：20:00～22:00

日時：2019年12月10日 場所：桐蔭横浜大学廣川研究室 時間：09:00～11:00

- ・松本勇治コーチへのインタビュー

日時：2019年10月9日 場所：関東管区警察学校 時間：12:00～13:30

日時：2019年12月13日 場所：関東管区警察学校 時間：09:30～11:00

- ・鈴木桂治コーチへのインタビュー

日時：2019年5月28日 場所：国士舘大学柔道部師範室 時間：15:00～16:00

日時：2019年9月17日 場所：国士舘大学柔道部師範室 時間：11:30～12:30

- ・石井孝法委員へのインタビュー

日時：2019年9月3日 場所：了徳寺大学石井研究室 時間：14:00～15:30

日時：2019年11月20日 場所：了徳寺大学石井研究室 時間：11:00～12:30

- ・林晃男子監督へのインタビュー

日時：2019年12月19日 場所：全日本空手道会館 時間：11:30～12:00

- ・今井謙一コーチへのインタビュー

日時：2019年12月19日 場所：全日本空手道会館 時間：12:00～13:00

第4節 倫理的配慮

研究対象者へは公表の方法についての説明を行い、同意を得た上でインタビューを実施した。選手個人のコンディション情報や戦略、作戦に関しては、強化に関する機密情報のため記載を控えた。

第3章 結果

空手、柔道のナショナルチームの強化・運営策は、オリンピック出場選手が確定する代表決定後からオリンピックまでの120日と、オリンピック開催の有無に左右されない強化委員会の運営に関する内容に大別された。

以下に、柔道と空手の共通点や変遷とそれぞれの評価、およびリオオリンピック時における直前120日の具体的な活動を示す。

第1節 代表決定後オリンピック開催までの120日間のナショナルチームの強化・運営策

第1項 ナショナルチーム編成

これまでの空手および柔道のナショナルチームの編成は、1コーチあたり、複数人担当する編成とコーチと選手が1対1の編成の2パターンがあった。

1. 1コーチあたり、複数人担当する編成

空手の1979～2018年に、柔道は2012年ロンドンオリンピックに向けた体制で2008年から、1コーチあたり、複数人担当する編成（複数担当制）を採用していた（図3）。

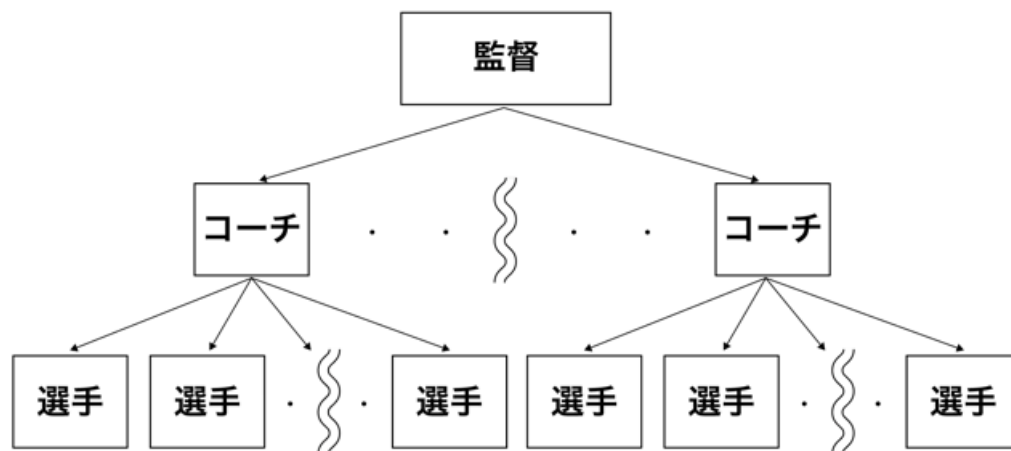


図3 複数担当制

2. コーチと選手が1対1の編成

空手は2019年1月から、柔道は2008年までと2013年以降、現在まで、コーチと選手が1対1の編成（担当コーチ制）を採用していた（図4）。2016年リオ大会ではこの体制で成果を上げている。

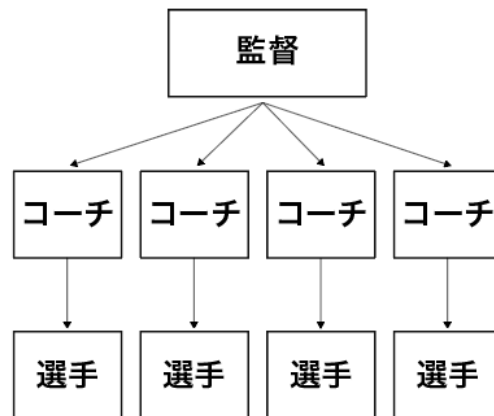


図4 1対1担当制

第2節 柔道のリオオリンピック直前の対応

第1項 所属との強化連携

柔道では、リオオリンピック直前に選手の所属先に向けた強化フォーラムを実施した。またその後に、所属、選手、担当コーチの三者面談を行った。また、所属先関係者をスーパーアドバイザーとして合宿や大会に招聘した。

表8 柔道の所属先との強化連携

事業名	場所	参加者	内容
強化連携フォーラム	NTC	・代表選手 ・所属長	・オリンピック本番に向けた強化方針や計画、日程の提示。
三者面談	NTC	・代表選手 ・所属長	・担当コーチ、所属長、選手で、オリンピックまでの合宿や大会参加、強化プランについての意見交換。
スーパーアドバイザー招聘	合宿や大会		選手所属先や関係者の合宿や大会などへの招聘。

第2項 オリンピック直前120日間の具体的計画

空手のオリンピック日本代表選手は、2020年4月6日に決定する。これ以降、オリンピック本番8月6日～8日まではおよそ120日間である。継続的にオリンピックメダルを獲得してきた柔道男女のリオオリンピック直前120日間の具体的計画は次の通りであった。

1. 男子柔道ナショナルチームの具体的な事業

オリンピック直前 120 日の内、男子柔道ナショナルチームでのトレーニングは 50 日で、それ以外は所属チームでの活動に委ねられていた。

表 9 柔道男子のリオオリンピック直前 120 日の事業¹⁸

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91				
												東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東					N	N	N	N	N		
90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61				
N																																	
60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31				
					旭	旭	旭	旭	旭	旭											ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				
ス	ス	ス	ス	ス	ス											N	N	N	N	N	N	N					現	現	現	現	現	現	

東：東海大学合宿 N：NTC ス：スペイン合宿 旭：旭化成宮崎合宿 ス：スペイン合宿

2016 年、リオオリンピック代表選手決定後、柔道男子は 4 月 18 日～27 日に第 1 回合宿を東海大学で実施した。午前中は、短距離走やウェイトトレーニングを行い、午後からは東海大学、国士舘大学、桐蔭横浜大学で出稽古を行った。また、オリンピックに向け、担当コーチと選手で合宿計画や大会派遣計画、課題克服計画などの強化計画についてのミーティングを行っていた。

第 2 回合宿は 5 月 1 日～6 日、ナショナルトレーニングセンターで実施した。近隣の大学生の参加を要請し、乱取りを行った。また、代表選手所属長を集めた強化連携フォーラムを実施、その後に三者面談を行い、強化計画の共有と確認を行った。

第 3 回合宿は 6 月 13 日～18 日、宮崎県延岡市の旭化成柔道場で実施した。代表選手以外にも関西や九州の選手が集まり、乱取りなどを行った。

6 月 29 日～7 月 13 日はヨーロッパ柔道連盟主催のスペイン合宿に参加した。1 回の練習は 1 時間半程度で、外国人選手との実戦経験を積み、対策を練った。

7 月 24 日～29 日はナショナルトレーニングセンターで第 4 回合宿を実施した。練習パートナーも参加し、対戦相手をイメージした部分練習などを行った。また所属長に対して、オリンピックの具体的なスケジュールや現地情報などを共有するためのフォーラムを実施した。

8 月 2 日～8 日はリオで最終調整を行い、罰則などに対する対策練習などを行った。

表 10 柔道男子のリオオリンピック直前 120 日の事業内容

事業	全体の内容
第 1 回男子合宿 場所：東海大学 日時：4/18～27 参加：日本代表全体・実業	・午前中に山登りや短距離走、ウェイトトレーニング。 ・午後は東海大学、国士舘大学、桐蔭横浜大学への出稽古先のメニューで 2 時間程度の練習。 ・オリンピックに向けたコーチ、選手のミーティング。

団、大学強豪選手	・東京町田の万葉の湯に宿泊。
第2回男子合宿 場所：NTC 日時：5/1～6 参加：日本代表選手・所属長	・担当コーチ、所属長、選手による強化計画の三者面談。 ・所属長に向け、井上監督からのオリンピック本番に向けた強化方針を示す強化フォーラム。 ・準備運動、打ち込み、乱取りなどで2時間程度の練習。普段の乱取り 5分×10本程度のところを12本。 ・警視庁の武道館への出稽古。
第3回男子合宿 場所：旭化成柔道場 日時：6/13～18 参加：日本代表全体・実業団、大学強豪選手	・午前フィジカルトレーニング。 ・午後に3時間程度一本取り中心のメニュー。 ・関西や九州の実業団や大学の強豪選手が集まった。
欧州合宿 場所：スペイン 日時：6/29～7/13 参加：日本代表・ヨーロッパ強豪選手	・対戦相手の研究、実戦稽古。 ・1回の練習は1時間半程度。軽量級と重量級と交互に行う乱取りは、全部で5分×8本程度。
第4回男子合宿 場所：NTC 日時：7/24～29 参加：日本代表・練習パートナー	・最終状態確認。対戦相手を確認、想定、研究した稽古。対戦相手に似た選手を合宿に招聘し、実戦稽古。 ・一本取りと、下になった場合などの場面を想定した対策練習。
現地調整 場所：リオ 日時：8/2～8/8 参加：日本代表・練習パートナー	・最終調整。 ・1日2時間のウォーミングアップ、自重サーキットや、打ち込み、乱取りなど。

2. 女子柔道ナショナルチームの具体的な事業

オリンピック直前120日の内、女子柔道ナショナルチームでのトレーニングは25日行い、それ以外は所属チームでの活動に委ねられていた。

表 11 柔道女子のリオオリンピック直前 120 日の事業

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91
																						N	N	N	N	N			
90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
											N	N	N	N	N							ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ス	ス	ス	ス	ス	ス																			現	現	現	現	現	現

N : NTC ス : スペイン合宿

第 1 回合宿を 4 月 25 日～29 日にナショナルトレーニングセンターで実施した。代表選手の所属長を集めた強化連携フォーラムに加え、所属長、選手、担当コーチによる三者面談を行い、代表選手個々との強化計画を共有した。国士舘大学から男子選手を招集。また、所属先から強豪選手や外国人選手にも案内して、代表選手と次々に乱取りを行った。

第 2 回合宿は、6 月 14 日～18 日にナショナルトレーニングセンターで実施した。試合を意識した一本取りや国際審判の講習、シンクロナイズドスイミングの井村監督による講習などを行った。

6 月 29 日～7 月 13 日はヨーロッパ柔道連盟主催のスペイン合宿に参加した。大会前後に減量テストのための大会に参加するなど、オリンピックに向けた最終テストを行った。

8 月 2 日～8 月 8 日はリオで現地調整を実施した。

表 12 柔道女子のリオオリンピック直前 120 日の事業内容

事業名	全体の内容
第 1 回女子合宿 場所：NTC 日時：4/25～29 参加：日本代表全体・実業団や大学の強豪選手	・担当コーチ、所属長、選手による三者面談やオリンピック本番に向けた強化方針を示す強化フォーラムの実施。 ・強豪大学から男子選手を招聘し、フィジカルの強い相手との対戦経験値の向上。 ・5 分×10 本の乱取りなど。
第 2 回女子合宿 場所：NTC 日時：6/14～18 参加：日本代表全体・実業団や大学の強豪選手	・試合を意識した試合形式。 ・国際審判員による講義やシンクロの井村監督による講義。
欧州合宿 場所：スペイン 日時：6/29～7/13 参加：日本代表全体・ヨーロッパ強豪選手	・ヨーロッパ連盟主催。 ・合宿前後にシード権獲得、体重調整、経験のため国際大会に参加する選手もいる。

現地調整 場所：リオ 日時：8/2～8/8 参加：日本代表・練習パートナー	・最終調整。 ・選手村近くに柔道専用レジデンスを賃貸。日本食、練習パートナー、トレーニング器具を常備。(24 時間練習可能) ・担当コーチと選手は同じ飛行機で移動。
---	--

代表決定以降、代表選手も含むナショナルチームメンバーが派遣された国際大会は以下の通りである。これらの大会の中から、それぞれの代表選手の強化計画に則り、選手、担当コーチ、所属長で出場大会を決め、各地に派遣した。

表 13 全柔連ナショナルチームの国際大会への派遣

事業名	実施場所	期間
グランドスラム・バクー	アゼルバイジャン	5/2～10
グランプリ・アルマティ	カザフスタン	5/9～16
ワールドマスターズ	メキシコ	5/23～31
グランプリ・ブダペスト	ハンガリー	6/20～7/1
グランプリ・ウランバートル	モンゴル	6/27～7/4
東アジア選手権	香港	6/29～7/4
グランドスラム・チュメニ	ロシア	7/11～22
オリンピック	ブラジル	7/30～8/15

第3節 空手の強化体制

空手ナショナルチームスタッフの構成メンバーは、大会参戦時にコーチボックスに入り、合宿時には技術指導を行う技術スタッフと、トレーナーや情報分析を行う医科学スタッフであった。

第1項 空手の強化委員会

2018 年以降の空手の強化委員会は、委員長を頂点に、副委員長 1 人が選出されていた。その下に主に技術を提供する強化委員と、サポートを担当する医科学委員が参画していた。

シニア強化委員は、男子組手監督、女子組手監督、形監督の 3 人の監督がおり、それぞれ、男子組手コーチ、女子組手コーチ、形コーチがついていた。

ジュニア強化委員は、ジュニア監督の下、組手 U 21 コーチ、組手ジュニアコーチ、組手カデットコーチと、それぞれの年齢別カテゴリーを担当するコーチおよび形コーチがいた。

医科学委員としては、サポートマネージャーの下に、トレーナー、情報担当、栄養担当、ストレングス担当がいた。

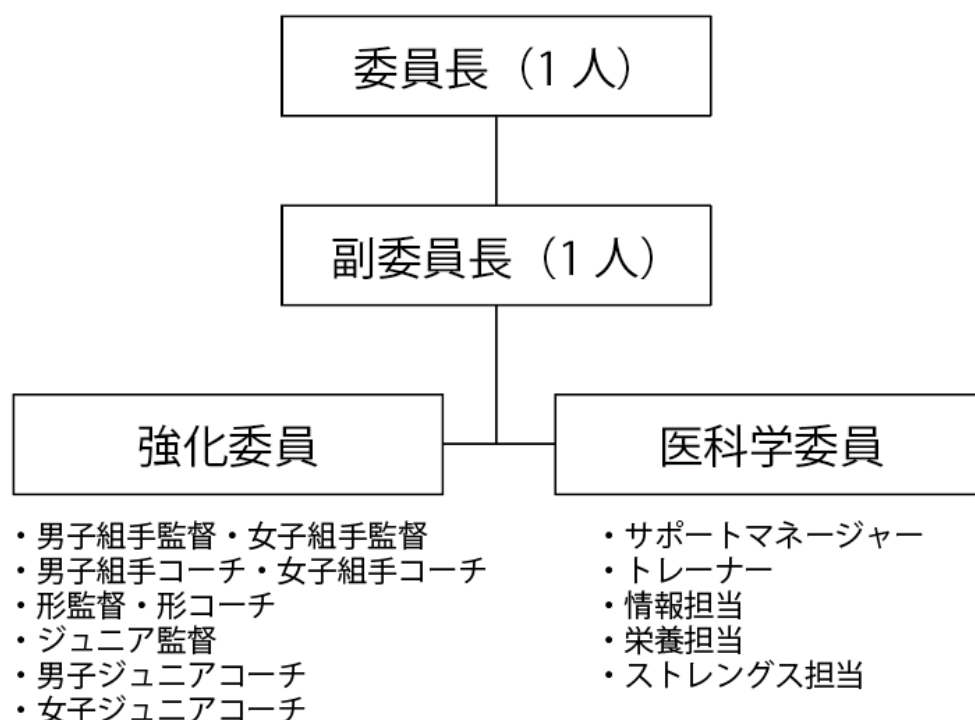


図 5 空手の強化委員会

第2項 空手の2018年の事業計画

空手では、上記強化委員が集まって開く強化委員会を2018年は2回開催した。

表 14 2018年の空手の事業計画

事業名	年間開催数	意図
強化委員会	2回	代表選考や、強化方針などの会議

第3項 空手のナショナルチームの監督、コーチ等スタッフ体制

空手の強化体制は、これまで度々変更されてきた。まず、オリンピックが決まる2016年までと、世界選手権で惨敗した2017、18年のシステム、そしてオリンピックに向かう2019年のシステムである。

1. 2015年以前の強化体制

2015年以前の空手ナショナルチームの強化体制は、監督兼強化委員長1人、組手コーチ3人～10人程度と形コーチ2～4人程度があり、そこにそれぞれの種目の強化選手がいるという形であった。コーチの選出は監督が行った。

毎年4月の選考会で、組手は男女階級毎にそれぞれ3人程度、形は個人形が男女それぞれ3人程度、団体形が男女それぞれ2チーム程度選出されていた。選考会以降の主な活動

としては、5月～10月に毎月2泊3日の合宿を行なっていた。2年に一度の世界選手権がある年は、8月頃の合宿で日本代表選考会を行い、強化選手の中から日本代表選手を決定した。コーチボックスに入るコーチの選定は、代表監督が行った。

また、2015年に林晃が監督となった際には、2014年まで監督を務めていた香川政夫が強化委員長となったため、強化委員長と監督が分離。2015年以降は監督の上に強化委員長がいる形となった。

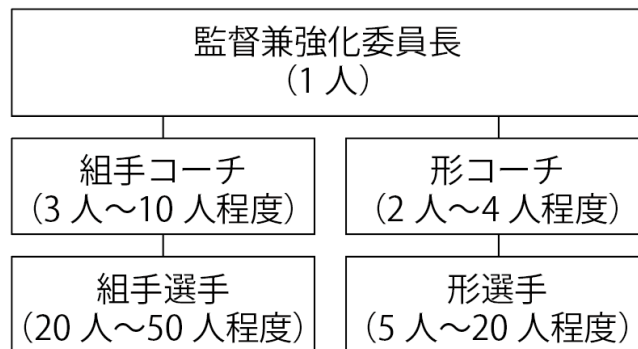


図 6 2015 年までの空手の強化体制

2. 2017、18 年の強化体制

2017、18 年の強化体制は、監督の下、組手総括、形総括があり、組手では男女それぞれのチーフがそれぞれ 1 人ずつに加え、階級担当コーチ、選手という仕組みであった。形にはチーフは配置されず、形総括がチーム全体をみていた。

男子は、組手-60kg 級・-67kg 級を担当するコーチ、-75kg 級・-84kg 級を担当するコーチ、+84kg 級とオブザーバーとしてナショナルチームに参加した極真の選手を担当するコーチがそれぞれ 2、3 人いた。女子は-50kg 級、-55kg 級を担当するコーチ、-61kg 級、-68kg 級、+68kg 級を担当するコーチそれぞれ 2、3 人いた。男女組手それぞれの階級に選手はそれぞれ 4～6 人程度がいた。

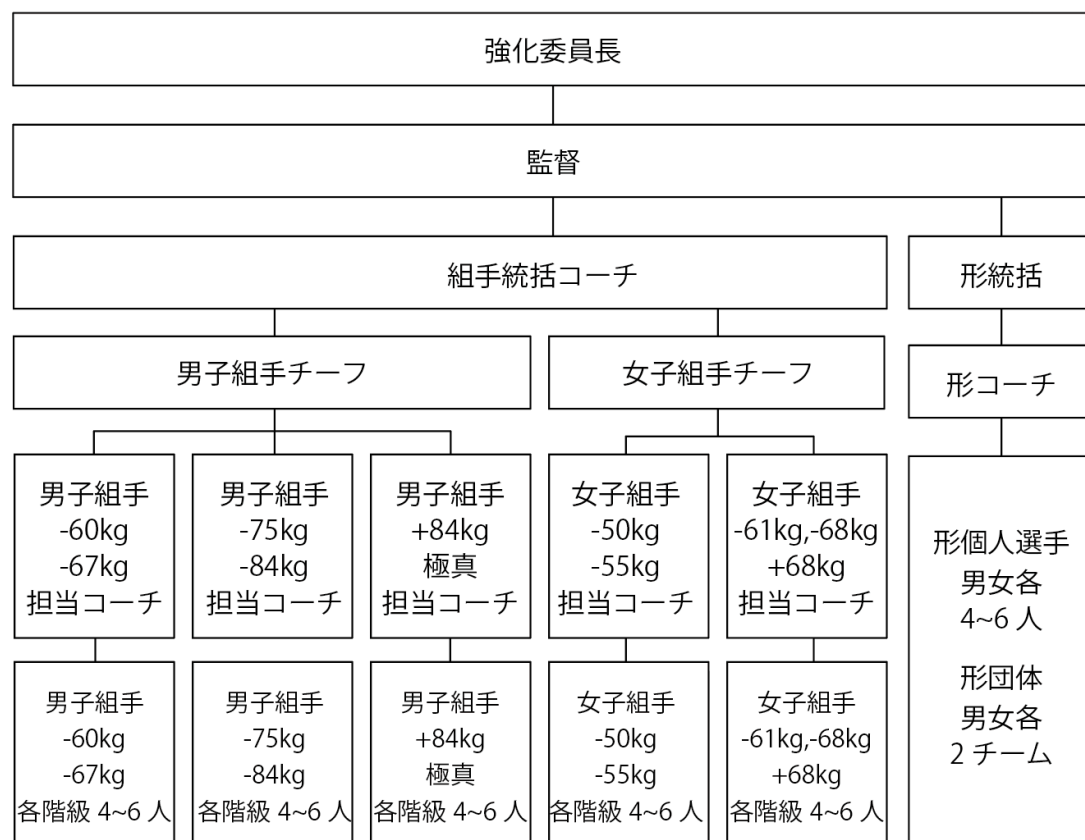


図 7 2017, 18 年の空手の強化体制

3. 2019 年 1 月から始まった担当コーチシステム

2018 年世界選手権の惨敗を経て、空手ナショナルチームは緊急ミーティングを実施。コーチの選手への責任感、選手のコーチへの信頼感がないなどの、コーチ・選手の意見を反映して、柔道のシステムを参考とした担当コーチシステムを採用。2019 年 1 月時点のオリンピック・スタンディングの各階級上位 2 名、計 16 人にそれぞれ担当コーチをマッチングした。1 人のコーチが複数人を担当するケースとマンツーマンのケースがあった。

2020 年 1 月以降は、オリンピック・スタンディングの各階級上位 2 名、計 16 人を集中強化選手として指定。この 16 人が 4 月までに 3 つのプレミアリーグ（オリンピック・スタンディング対象大会）に参加し、4 月 6 日時点でポイントの高い選手がオリンピック日本代表選手となる強化計画である。

2020 年 1 月以降 4 月までの選手とコーチのマッチングは以下のようになっており、4 月以降は各階級の選手がオリンピック日本代表の 1 人になる。原則それまで担当コーチをしていたコーチがオリンピックに向けた担当になる予定である。

4. オリンピックに向けた 2020 年 1 月以降の男子組手強化体制

男子組手の強化体制は、林男子監督の下、浪速高校に所属する今井コーチが近畿大学卒の

67kg 級・篠原浩人選手、75kg 級・西村拳選手に加え、京都産業大学卒・75 超級の荒賀龍太郎選手を担当する。

また、空手会派である松涛連盟に所属する帝京大学卒の稲田コーチが帝京大学卒・67kg 級の佐合尚人選手、同じく帝京大学卒・75kg 超級の香川幸允選手を担当する。高松中央高校所属の崎山コーチが息 75kg 級の崎山優成選手を担当する。

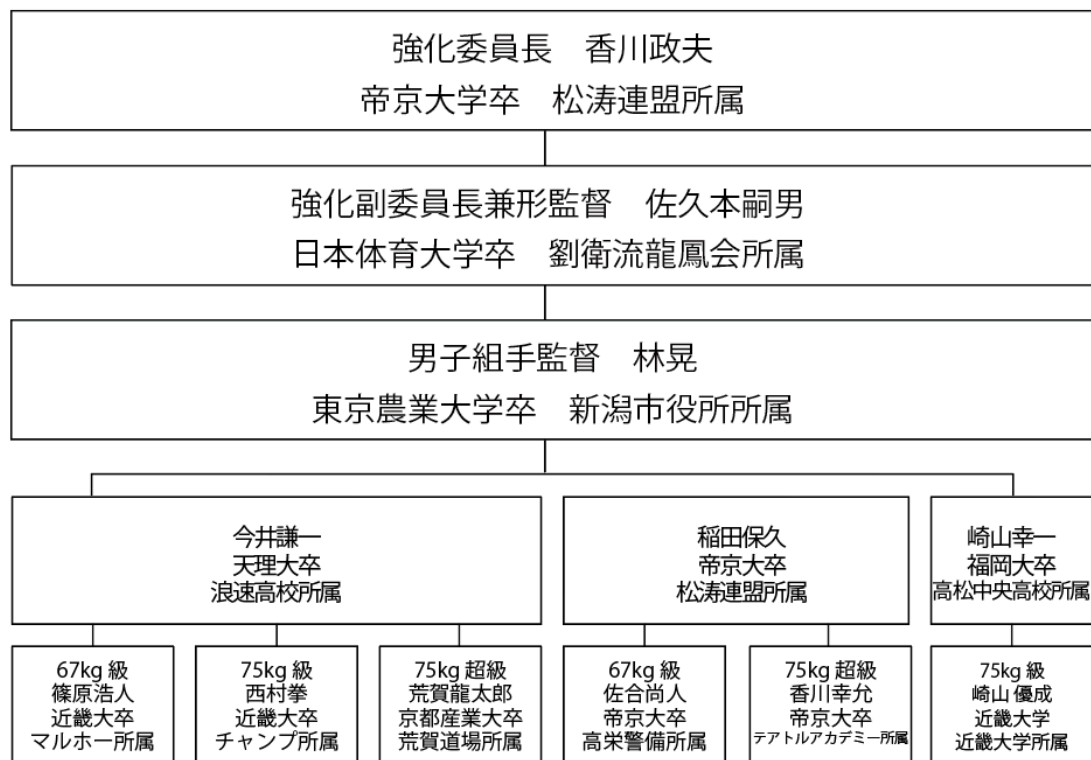


図 8 2020 年の東京オリンピックに向けた空手男子の強化体制

5. オリンピックに向けた 2020 年 1 月以降の女子組手強化体制

女子組手の強化体制は、中野女子監督の下、日本航空高校に所属する樋口コーチが帝京大学卒の 55kg 級・宮原美穂選手、61kg 級・染谷真有美選手、61kg 超級・染谷香予選手に加え、大正大学卒・55kg 級の山田沙羅選手を担当する。

また、西濃運輸に所属する近畿大学卒の本間コーチが帝京大学卒・61kg 級の森口彩美選手を担当する。高松中央高校所属の崎山コーチは 61kg 超級の植草歩選手を担当する。



図 9 2020 年の東京オリンピックに向けた空手女子の強化体制

6. オリンピックに向けた 2020 年 1 月以降の形強化体制

男女形の強化体制は、佐久本監督が沖縄国際大学卒の喜友名諒選手を担当する。二本木いろはに所属する古川コーチが関西大学卒の清水希容選手を担当する。国士舘大学所属の宇佐美理香コーチが同志社大学卒の大野ひかる選手、帝京大学卒の本一将選手を担当する。

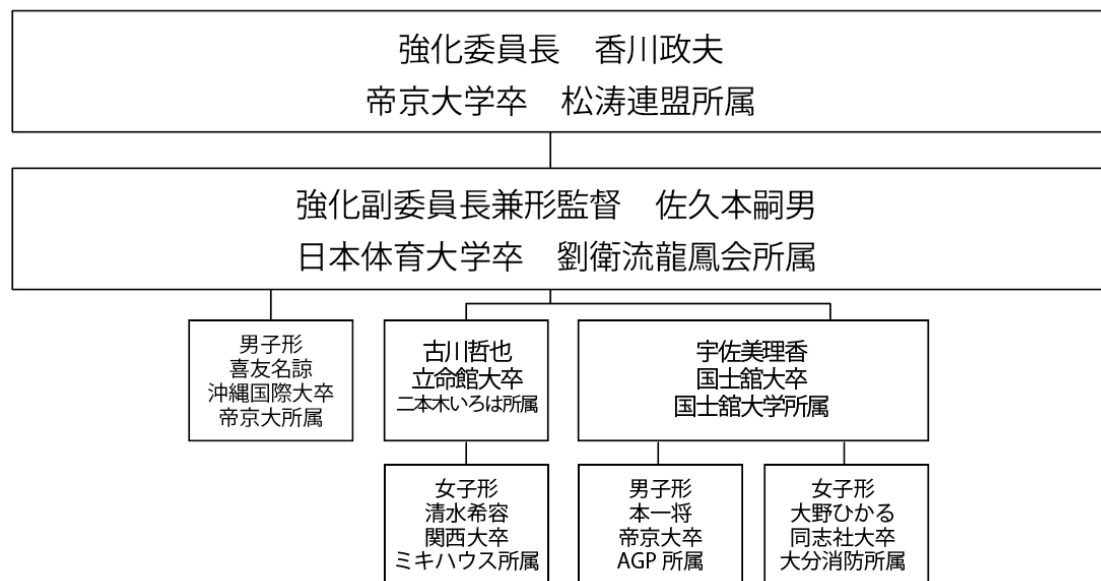


図 10 2020 年の東京オリンピックに向けた空手男子形の強化体制

第 4 項 空手の強化体制に関する評価

空手ナショナルチームの関係者は、2019 年 1 月以降のマンツーマン指導体制について、「選手は頼るべきコーチを、コーチは情熱を傾けるべき選手を認識することができた。」と評価した。また、「2016 年まで、監督の下に組手コーチ、形コーチが横並びでいる形でした。男女の区別も担当も特に決まっておらず、全コーチが全体を指導するスタイルで合宿や遠征が組まれていました。2017 年、オリンピックに向け、指導の細分化を目指し、監督の下に組手と形統括やチーフを置き、その下に階級毎の担当コーチを置きました。2019 年 1 月からは、1 月時点のオリンピック・スタンディングの各階級上位 2 名、計 16 人にそれぞれ担当コーチをマッチングしました。選手と担当コーチが日頃から密接な関係を築くため、ナショナルチームの担当コーチを所属先に派遣、または選手が担当コーチの拠点で練習する担当コーチ制もスタートしました。毎月最低 1 週間は担当コーチと対象選手が顔を合わせ、動きや状態をチェックし、所属の指導者と密に連携して課題克服に取り組んでいます。コーチの選択は、ナショナルチームコーチの中から選手の意見を最大限尊重して監督が行いました。このスタートにより、選手はナショナルチームの中で最も頼るべきコーチを認識、またコーチは最も情熱を傾けるべき選手を認識することができています。」と述べた。

第 5 項 空手の所属との強化連携に関するインタビュー

2018 年世界選手権でコーチボックスに入った今井コーチは、それまでの所属との関係について「所属に対してナショナルチームから歩み寄りがなかった」「選手所属先と、ナショナルチームとベクトルが合っていなかった。」と評価した。また、「2018 年に世界選手権で惨敗した時は、所属に対してナショナルチームから歩み寄りがなかったです。インターハイ

や大学、実業団の日本一を目指す選手所属先と、世界一を目指すナショナルチームと少しベクトルが合っていなかったように思います。選手は、やはり普段の練習拠点である所属チームとの信頼関係がナショナルチームよりも強く、結果的にナショナルチームコーチとの信頼関係も築きにくかったのではと感じています。2019年1月からは担当コーチ制が始まり、各担当コーチが所属と連携を始めています。」と述べた。しかし、ナショナルチームとしての所属チームとの強化連携は担当コーチに一任されており、具体案は2019年には実行されていなかった。

第4節 柔道の強化体制

柔道ナショナルチームスタッフは、大会参戦時にコーチボックスに入り、合宿時に技術指導を行う強化スタッフに加え、トレーナーや情報分析スタッフが科学研究部から派遣されていた。

第1項 柔道の強化委員会

(公財)全日本柔道連盟(以下＝全柔連)強化委員会は、強化委員長を頂点に、副委員長3人が選出されていた。主に委員長の補佐をする1人と、男子強化部長、女子強化部長がそれぞれ1人ずつとなっていた。

強化委員には中体連、高体連、学連と言った競技団体の長、科学研究部の各代表に加え、元強化スタッフが参画していた。

特別委員には、指導者養成委員会、大会事業委員会、国際委員会、審判委員会などの長、それに、スポットで指導を行う特別コーチなどがいた。

強化スタッフは、男女シニア、男女ジュニアとも、それぞれの監督にそれぞれのコーチがついていた。また男女にそれぞれ総務コーチがいた。

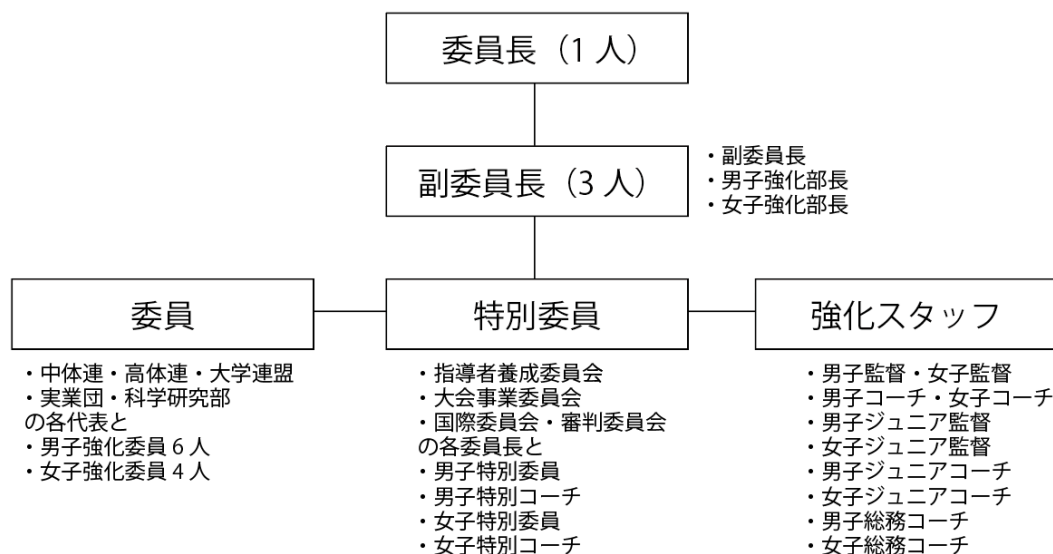


図 11 柔道の強化委員会

第2項 柔道の2019年の強化計画

全柔連では上記強化委員が集まって開く強化委員会を2016年は男子6回、女子6回、男女合同を6回計画していた。

表 15 2016年の柔道の事業計画

事業名	年間開催数	意図
男子強化委員会	6回	代表選考や強化方針などの会議
女子強化委員会	6回	代表選考や強化方針などの会議
男女合同強化委員会	6回	代表選考や強化方針などの会議

第3項 柔道のナショナルチームの監督、コーチ等スタッフ体制

1. 2012 ロンドンの強化体制

2012年ロンドン惨敗時は、ナショナルチームと所属先のベクトルが合っていなかった。ナショナルチームは、2009年に始まったオリンピック出場権のためのランキングポイントを獲得するため、合宿と国際大会派遣を積極的に行っていた。選手所属チームはコンディションを大切にしたい思いがあった。また2008年まで実施されていた担当コーチ制も廃止されていた。

当時現役だった鈴木コーチは、「所属先と連携を促すような考え方はなかった。」「担当制を実施するコーチの数もいなかった。」と評価した。

「2009年以降は、ともかく合宿と大会の繰り返しでした。オリンピックポイントを少しでも多くとり、ランキング上位に入ることが最優先されていたように思います。もちろん、シ

ード権獲得などに影響するので、ランキングは高いに越したことはないです。しかし、選手のコンディションも同じく大切なことです。学生のうちは競技者として練習量が必要な時期もありますが、丁寧に競技力をあげるべきベテラン勢には厳しい状況でした。所属先とも連携を促進するような考え方もなかったと思います。また、篠原監督の下3人コーチがいましたが、篠原監督、中村コーチがメインの指導者となっており、井上現監督は特別コーチとしてスポットでの指導、窪田コーチは総務を兼任していました。コーチも、階級に担当コーチをつけるだけの人数はいなかったですね。」と述べた。

2. リオオリンピックに向けた強化体制

2012年ロンドンオリンピック終了後、2012年11月に新体制となった柔道ナショナルチームは、担当コーチ制を復活した。コーチは、それぞれ担当する階級を持つ階級担当制を採用し、1人のコーチが最大2つの階級を担当した。2016年4月にオリンピック日本代表が決定すると、原則、階級を担当していたコーチがその階級の日本代表選手の担当コーチになった。また、リオオリンピックでは、3人の副委員長（木村昌彦氏・横浜国立大学所属、山本洋祐・日本体育大学所属、増地千代里・日本体育大学所属）がチームリーダーとして参加した。

3. リオオリンピックに向けた男子の強化体制

リオオリンピックに向けた柔道男子は、2012年ロンドンオリンピックで男子コーチであった東海大学所属の井上康生が監督となった。大阪府警察所属の古根川実コーチが東海大学卒の60kg級・高藤直寿選手と66kg級・海老沼匡選手を担当。了徳寺学園所属の金丸雄介コーチが天理大学卒の73kg級・大野将平選手と81kg級の長瀬貴規選手を担当。桐蔭横浜大学所属の廣川充志コーチが東海大卒の90kg級・ベイカー茉秋選手を担当。国士舘大学所属の鈴木桂治コーチが東海大学卒の100kg級・羽賀龍之介選手と100kg超級の原沢久喜選手を担当した。



図 12 リオオリンピック代表決定後の男子柔道強化体制

4. リオオリンピック女子の強化体制

リオオリンピックに向けた柔道女子は、仙台大学所属の南條充寿が監督となった。コマツ所属の谷本歩美コーチが大成高校卒の 48kg 級・近藤亜美選手と渋谷教育学園高校卒の 52kg 級・中村美里選手を担当。神奈川県警察所属の松本勇治コーチが帝京大学卒の 57kg 級・松本薫選手と東海大学卒の 70kg 級・田知本遥選手を担当。三井住友海上火災保険所属の上野雅恵コーチが淑徳高校卒の 63kg 級・田代未来選手を担当。東海大所属の塚田真希コーチが環太平洋大学卒の 78kg 級・梅木真美選手を担当。ミキハウス所属の薪谷翠コーチが山梨学院大学卒の 78kg 超級の山部佳苗選手を担当した。



図 13 リオオリンピック代表決定後の女子柔道強化体制

第4項 柔道の強化体制に関するインタビュー

サポート責任者である石井委員は、強化に携わるスタッフだけではなく、競技団体や各種委員会の長で組織されている柔道の強化委員会に対し、「この会議では全日本ナショナルチームの強化方針も議論されます。これによりオリンピックで戦うために作成された強化スタッフの方針や計画が、中学校、高校、大学、実業団など、選手が育成される所属の加盟団体に伝わります。」と評価した。

第5項 柔道の所属との強化連携に関するインタビューと文献調査

2013 年からのナショナルチームは、担当コーチ制を復活させるとともに、所属連携フォーラムや三者面談（選手、ナショナルチームコーチ、所属チームのコーチ）、スーパーアドバイザー制度をスタートさせた。具体的には、所属連携フォーラムで強化選手の所属を集めて、様々な強化スタッフから国際大会の審判情報や技術的な情報、日本としての戦略などを参加者と共有した。リオ大会代表決定後の4月以降に開催された所属連携フォーラムでは、さらに踏み込んだ強化方針やオリンピックに向けた戦略部分が情報担当から発表された。これでチーム全体の課題が所属長に共有され、その後に行われる三者面談にて、フォーラムで得た知見を元に、個人選手にフォーカスしたオリンピックまでの計画が具体的に練られていくという流れとなった。また、スーパーアドバイザーには、選手の特性により、所属チームのコーチだけでなく、中高時代のコーチなどが参画するケースもあった。このような取り組みに対して関係者は、「所属チームとナショナルチームが連絡を密に取っていくようになった」「双方の熱意が良い形でマッチした」と強化連携がうまくいったと評価していた。

石井委員は、「強化委員会には、3 人の副委員長がいます。主に委員長の補佐や、JOC や JSC、オリンピック組織委員会との調整をする副委員長と、男子強化部長兼任の副委員長、女子強化部長兼任の副委員長です。それぞれが、強化フォーラムの時に所属先に対して JOC や JSC の情報や国際大会の動向などの情報提供を行います。また、副委員長は強化現場に長くいた先生方で、所属の現場も、ナショナルチームの現場もよく分かっています。監督や委員長にコーチや所属チームが直接言いづらい事がある時など、副委員長がいることでスムーズになっているように思います。所属チームとナショナルチームの良い調整役をしています。」

「2016 年は日本代表決定後、ナショナルトレーニングセンターで行われた合宿中に強化連携フォーラムを開催しました。監督からオリンピック本番に向けた強化方針や計画、副委員長からは世界の動向、またそれぞれの強化スタッフからは本大会までの合宿や試合参加の予定、現地での宿泊先や試合会場、練習場所や洗濯場所、食事のサポート場所等についての情報を代表選手所属先と共有しました。」と述べた。

金丸コーチは、「第 2 回合宿では、副委員長や監督、情報担当が強化方針や計画、オリンピック本番の日程予定、課題やルール対策などを所属チームに伝える強化フォーラムを行いました。その後に所属長、担当コーチ、選手で三者面談を行い、第 1 回合宿で作ったオリンピックまでの方策を改めて共有しました。強化フォーラムを先に行うことで、ナショナルチームの方針が所属チームに示せ、三者面談がスムーズにできているように感じます。」

また廣川コーチは、「ベイカー茉秋選手の高校の恩師・竹内先生に選手の精神的な安定を狙いとしてスーパーアドバイザーという役割で 5 月の代表合宿から参加願いました。役割を明確にすることで、結果としてすべてがうまくかみ合ったと思っています。選手の考えを尊重しながらこちらの意向を伝え、双方が納得した上でオリンピックまでのスケジューリングを行いました。所属（東海大）の上水先生との調整も重要と判断し、密に連絡を取り合うことを確認しました。」

リオオリンピックにおいて男子全種目でメダルを獲得した井上康生監督は、「選手は日本代表と所属チームでの活動が半々ですので、いかに所属チームでの練習を代表での活動につなげるかが大事です。そこで、全日本で分析した情報を数値、データで所属の先生方に説明をするなど、全日本と所属チーム間の連携を強めてきました。所属の先生方のご理解と、全日本に携わっているコーチ、スタッフの熱意が良い形でマッチし、結果となって出ていると思っています。」¹⁹と 2015 年世界選手権後のインタビューで答えていた。

「所属との関係も以前は疎遠で企業の指導者などからは不満もありましたが、今はどうですか。」という質問に対して、2015 年当時の副委員長であった山本洋介男子強化部長は次のように答えている。「所属との連携は密にやっています。毎年 3 月にフォーラムをやって、そこで情報交換をやったり、井上監督、コーチ、ジュニアヘッドコーチも常になにかあれば

所属との連携を取りながらやっています。またコーチから合宿で行ったトレーニング法、技術指導なども報告し、所属でも継続して行うように連携を深めています。²⁰

2015 年当時の副委員長であった増地千代里女子強化部長は、「所属だと、コーチが 1 選手に対して付きっきりで指導したり、ビデオを観たり、海外のライバルを研究することは大変です。そういう面を我々全日本がサポートして、世界選手権やオリンピックに臨むのが一番良いやり方ではないかと思っています。(中略) 所属との連携と一口にいても、なかなか難しいんですが、所属の監督やコーチに合宿に来ていただいて見てもらうとか、合宿や大会の終わった後は所属の監督に担当コーチが必ず報告するようにしています。あと、世界選手権の前には所属とのミーティングをやり、お互いに意見を交換しながら最後の詰めをやるようにしています。(中略) 全日本でやっている練習を所属の監督やコーチにフィードバックして、所属に帰ってやってもらうようにしたいということです。世界選手権も毎年行われているので、どんどん最新の情報を集め、どんどん消化していかなければならないわけです。毎年が勝負ですから、所属も巻き込んで戦っていかないとなかなか勝てません。」²¹と述べていた。

井上仁は東京新聞にて「メダル量産で男女に共通するのが、選手の所属との強化連携と個々の状況に合わせた細かな準備。(中略) 今回は出場する国際大会や合宿など、必要性や選手の体調などを代表コーチ陣、所属コーチ陣、選手本人とも相談した上で決定。毎年の世界選手権や今年の五輪といった『本番』に万全の状態で合わせることを明確にすることで、故障防止や無理な減量もなくなり安定感につながった。最終段階でも、女子は直前の全体合宿をなくして所属で仕上げ、移動や普段と異なる環境によるストレスを極力排除。男子もぎりぎりまで国内で調整する」²²と述べていた。

第 5 節 リオオリンピック代表決定後に関する担当コーチインタビュー

リオオリンピックで柔道男子金メダルを獲得した 2 人の担当コーチである金丸コーチと廣川コーチに対し、リオオリンピック代表決定以降の選手所属チームとの強化連携に関してインタビューを行った。

第 1 項 リオオリンピック男子柔道で金メダルを獲得した担当コーチ

リオオリンピック男子柔道競技で金メダルを獲得した担当コーチは、金丸コーチと廣川コーチであった。それぞれのコーチの経歴を以下に記載する。

1. 廣川充志コーチ

1977 年 11 月 20 日生まれ。富山県出身。中央大学—筑波大学大学院—桐蔭横浜大学専任講師。同大学柔道部監督。98 全日本学生体重別優勝、02・05 全日本実業団個人優勝。²³

2. 金丸雄介コーチ

1979年9月14日生まれ。石川県出身。筑波大学—筑波大学大学院—了徳寺大学職員。現在は了徳寺大学柔道部コーチ。得意技は背負い投げ、袖釣り込み腰。97年全日本ジュニア優勝、00・04年講道館杯優勝、01・03・07・08年選抜体重別優勝。03年ドイツ国際優勝、07年フランス国際優勝。01・03・07年世界選手権出場、08年北京オリンピック代表²⁴

第2項 所属との強化連携について

選手の特性を伸ばす個別メニューや課題克服メニューの策定、合宿計画、大会派遣計画の立案、所属チームとの関係性や役割の明確化など、選手個々に応じた様々な対応があった。

1. 強化計画立案について

金丸、廣川の両コーチともに、日本代表決定後の4月合宿にて8月開催のオリンピックまでの計画を立案、所属先と共有している。また、5月合宿で所属フォーラム、三者面談を通して、所属先と調整をし、情報の共有を行った。

金丸コーチは強化計画の立案に対し、「第一回合宿では選手との間でオリンピックにピークを合わせるための練習計画や合宿計画の合意形成を行ないました。個別でどこまで遠征に行きたいか、どんな試合に出たいか、どんな合宿をしたいかなど、オリンピックに向かう過程を具体的にイメージしました。選手の練習拠点の監督、所属チームの両監督とも話し合い、日程を調整しました。普段の練習と合宿で調整していく選手に関しては、大会に派遣せず、計画性を重視したプランを立てました。」と述べた。

廣川コーチは、「試合に全力で臨む選手の場合、合宿よりも試合に出すことが強化、調整となりました。このやり方は柔道男子日本代表がロンドンで惨敗した方式だったので、こういう選手の場合、大会後は疲労を抜くように指導しました。代表決定以降、リオまでの間、選手の関きにに合わせて柔軟に参加大会を決定、変更しました。」と述べた。

2. 所属との関係について

前記の両コーチともに、「所属の練習は所属に任せた。」と述べた。

金丸コーチは、「所属の練習は所属に任せ、頻繁に足を運ばず、技や体調など崩れているポイントだけ所属と共有することにした。第三回合宿では、所属先監督からもアドバイスが増えましたが、内容に自分の考えと差異がないため、ポジティブに受け止めました。海外合宿の後、練習拠点に視察に行き選手の疲れがあるかを確認しました。」と述べた。

廣川コーチは、「オリンピック代表が決まってからリオまで、少なくとも週に一度は所属先に練習を見に行きました。選手によっては、同じ時間、同じ空間にできるだけ一緒にいることが必要だと思っていました。所属の練習は所属任せにしましたが、所属長と壁を作らず、とにかくコミュニケーションをとりました。一月に一度は所属先と指導方針を確認し、

常に練習内容や大会結果の活動報告を行ないました。所属長が言われたことは 100%取り入れたし、自分の意見も所属が受け入れてくれました。

所属先、ナショナルチーム、全ての関係者で共有したイメージは、川の流れを作り、選手を舟に見立てるということです。舟は不規則な動きをすることもあります。その舟を大海原＝目的地まで送り出すように水の流れを関係者みんなで整備しました。」と述べた。

3. 個別メニューについて

金丸コーチは、「フィジカルトレーニングは、選手、ナショナルチームトレーナー、担当コーチで模索し、所属でもできるように共有し、リオ現地での直前調整まで引き続き行いました。5月には個別分散合宿を行いました。午前はトレーニング、近隣の大学に出稽古をしました。選手と自家用車で出稽古先を回りました。個別分散合宿では通常はトレーナーを付けません、体力的にハードにする予定だったこの合宿には帯同させました。車の中では、選手を助手席に座らせて以下2点の話をしました。

・緊張したらどうなるか？→選手に緊張時の自覚を促し、これをコーチとしても知っておきたかった。

・どうして柔道を始めたか？→プレッシャーに打ち勝つためには動機は強みになると思った。苦しい時に立ち帰る部分でもある。

こうした話をしながら、私が作った全日本個別分散合宿の心得を選手と共有しました。」と述べた。

表 16 金丸コーチ作成の個別分散合宿の心得

平成 28 年 5 月 30 日

全日本個別分散合宿(73,81 kg級)心得

担当コーチ 金丸 雄介

1. **Tough Choice** (自ら厳しい道を選ぶこと)

合宿を行う意義とは・・・否定的な仮説から考える「合宿をしなくても勝てる」

普段の練習と合宿との違いとは？

自身が作る壁を一気に壊すこと (心技体、知識、思考、練習と試合など)

壁を壊さなければ進歩や発展はない→現状維持は相対的には「退化」

手段として「練習相手を変える」「練習強度・頻度を上げる」「講義で知識をつける」

2. **絶対に怪我をしない**

出稽古は道場破りと同じである。怪我をしたその時点で負け

対戦する一人一人に対して全集中を注ぐ

異常なまでのケアを行う (プロフェッショナルとしては当然である)

自身の体調の把握 (体重測定、4. **Self-awareness** を高めて対応)

3. **乱取の最初の 1 本に最高のパフォーマンスを**

乱取の 1 本目 = 大会の 1 試合目

乱取 1 本目はウォーミングアップなのか？

大会の 1 試合目が最も重要である (緊張感、初見の相手、心の隙)

乱取 1 本目に合わせるように作る (W-up や気持ち) → 1 本目: 最も強い相手を選ぶ

4. **Self-awareness** (自己認識力) を高める

柔道「心身の力を最も有効に使用する道」→心身自在のコントロールが必要

知らないものは操れない (まずは自分をよく知ること) 孫子の兵法

体調、気分、技術、思い、哲学、動機、性格など、あらゆることを明確に把握する

Technique: 言語化 (書く、話す) とスケーリング (数値化する) → 対応に移る

5. **いかなる想定外にも対応する**

想定外は必ず起こる

井上ジャパン「最強且つ最高の選手」最強とは？

自分が希望するもの (人、物、場所) が全てなくとも「一人で戦う覚悟を持つ」

細心の準備と柔軟な対応力 (根本となる気持ち様: 大高慢)

「修行は大高慢にてなければ、益 (やく) に立たず候。云々・・・」葉隠れ

Technique: 言葉「ちょうどいい」→常に自分に都合が合うように考える習慣

廣川コーチは、「選手の要求や要望を聞きながらも、『この部分はやろう』というような、完全に自分本位では調整させないということに気を付けました。全日本合宿の期間中に練習を休むような時は映像研究するなど井上監督に相談して、個別メニューで対応しました。」と述べた。

4. 課題の克服について

金丸コーチは、「第1回合宿では、具体的な課題を上げ、それぞれの課題克服プランを作成しました。新しい攻撃パターンの獲得も課題の一つにしました。オリンピックまでの約4ヶ月を期分けして、総合力の推移の山を作りました。練習環境の整備や、練習内容などイメージがある選手の場合、基本的には実現しましたが、時期的に合わないと思う活動については調整しました。

第3回合宿からは、練習パートナー（付き人）やトレーナーも参加しました。技のキメや罰則のやり取りなどの意識も大会に向けてチューニングしていきました。ポイントで先行され、残り時間わずかな場合など、シーンを限定した部分練習など実戦に近い練習を始めました。

第四回合宿では、対戦相手に似た選手を合宿に招聘して、実戦稽古を行ないました。起こりうる状況の対策、解決を図る部分稽古を行いました。」

廣川コーチは、「合宿では罰則部分を確認しました。技術の複雑なことはしませんでした。選手の不得意部分をどうやってネガティブにせずに指導するかを考えました。個性に応じて、本能的な部分、感覚的な部分を大切にしました。」

5. 練習の調整について

金丸コーチは、「オリンピック直前合宿ではプレッシャーからか調子が上がらない選手もいました。調子が悪いとなるとさらに練習量を増やしたくなるので、こういう時こそ、所属、監督と三位一体で、練習をやりすぎないように指導しました。オリンピック当日は、所属が『後はお任せします』と応援してくれました。」と述べた。

廣川コーチは、「繊細な選手の場合、違和感があればすぐに休み、怪我をするまで追い込まないため、大怪我はしませんでした。しかし、怪我をしながらでも大会で戦える状態も大切なので、少しの怪我を無理させて練習させた時も1,2度ありました。」と述べた。

第6節 柔道と空手の比較

2016年のリオオリンピック時の柔道ナショナルチームの事業と2018年の世界選手権時の空手とを比較すると次のようになる。柔道は3月に男女強化選手全体の所属先に向けた強化連携フォーラムを実施、男子は5月と7月に代表選手の所属を集めた連携フォーラムを行っている。女子は4月と6月に実施しており、2016年はオリンピックまでに計5回の

強化連携フォーラムを実施した。

また、柔道男子は 5 月、柔道女子は 4 月のナショナルトレーニングセンターでの合宿において、選手、所属、担当コーチで三者面談を実施した。スーパーアドバイザーの招聘なども行った。

しかし空手においては、男女組手・形ともにこうした事業はなんら行われていなかった。

表 17 柔道と空手の強化連携事業の比較

	柔道		空手
	2012 年	2013 年以降	2018 年
強化連携フォーラム	×	5 回	×
三者面談	×	○	×
スーパーアドバイザー	×	○	×
担当コーチ	×	○	×
強化副委員長	2 人	3 人	1 人

第4章 考察

本研究では、オリンピック代表決定後の強化・運営策について、柔道ではナショナルチームと選手の所属チームとが機能的に強化連携していることがわかった。この連携が円滑に進む要因は、次の2点であると考察できる。

第1節 ナショナルチームと所属チームの強化連携について

柔道の強化連携は、2013年以前は脆弱であったとされる。2013年以降に、井上監督が男子監督に就任して以降、積極的になった。具体的には、原則毎年3月に所属連携フォーラムが強化選手の所属を集めて行われ、ここで副委員長初め、様々な強化スタッフから国際大会の審判情報や技術的な情報、日本としての戦略などが提供され、参加者に共有されている。

また、代表決定後の4月以降に開催されるフォーラムでは、さらに踏み込んだ強化方針やオリンピックに向けた戦略部分が情報担当から発表される。これでチーム全体の課題が所属長に共有される。その後に行われる三者面談において、フォーラムで得た知見をもとに、代表選手にフォーカスしたオリンピックまでの計画が具体的に練られていく流れになっている。

ここで、担当コーチ、選手、所属長が寸分なく同じベクトルを向くことで、担当コーチは所属に、所属は担当コーチに安心して選手強化を任せることができる。実際に金メダルを獲得した2人のコーチともに、技術的な指導は行わなかったと語る。選手は、それまでの所属での練習作法でその位置に達している。方針が一緒であるならば、担当コーチは集中して、国際大会の様々な情報収集や、国際大会における選手の課題整理などを行い、それらを所属先、選手と共有し、対策を練ることに集中できる。そのためにも、所属との強化連携は国際大会勝利への最も基本的な部分で重要視すべき要件である。

そもそも、柔道の強化委員会は、技術スタッフに加え、実業団などの競技団体、科学研究部、指導者養成委員会、大会事業委員会、国際委員会、審判委員会などのそれぞれのトップで構成されていた。このことにより、例えば、国際的な柔道運営の情報や国際ルールの最新情報などが技術スタッフにも共有され、また技術スタッフの思惑も競技団体や各種委員会に伝えることができる仕組みとなっていた。

選手の育成母体であり所属が参画している競技団体や、各種委員会に強化委員会の情報や強化方針を公式に伝えることで、ナショナルチームと所属とがスムーズに同じベクトルを向くことができる。これらの会議を年間で男子6回、女子6回、男女合同6回行う（2016年）ことで、様々な関係者が一丸となって柔道の国際競技力の向上に尽力していると考えられる。

一方の空手は、技術スタッフと医科学委員会のみ強化委員会である。強化現場において、即断即決が必要な場面においては、委員長と委員の距離が近く、優位な部分があるかもしれない。しかし、選手の育成母体である競技団体や、各種委員会に強化委員会の情報や強化方針を公式に伝える術がないため、完全に同じベクトルを向くことが難しいと考えられる。

強化委員会が目標とするのは、国際競技力を上げ、国際大会でのメダル獲得を達成することである。国際競技力向上の対象となる強化選手になるには、まず国内大会で結果を出すことが求められる。その国内大会を実施しているのは各競技団体であるが、国際大会の情報を強化委員会と共有せずに、国内大会を実施している現状である。国際大会と国内大会が全く同じ基準で判定されるタイム系スポーツはそれでも問題ないかもしれない。しかし、空手は対人競技で、しかも判定競技である。国際的なトレンドを常に追わない限り、判定基準、運営基準など、様々な考え方が少しずつずれていくだろう。したがって、国際大会でメダル獲得を狙うには、日本一を目指す選手の所属先とナショナルチームとが同じ認識や解釈を持って強化連携する必要がある。それには、まずは強化委員会を柔道方式に変更することが有効だと考えられる。

第2節 直前120日の強化連携に関して

直前期に実施すべき事業は、強化連携フォーラム、三者面談、ナショナルチーム合宿、所属練習などである。これらを有機的に連携するための組織体制作りが必要である。それは、副委員長、担当コーチが所属とナショナルチームの潤滑油となるような体制である。風通しの良い関係性を作り、強化連携事業を通して共通課題を認識した所属とナショナルチームであれば、お互いの担当を明確にできる。ナショナルチームの役割は、実業団や強豪大学などの選手を集めた強化合宿を実行し、代表選手に多様な対人経験を獲得させたり、海外ライバル選手の対策や国際大会の情報共有により戦術を補ったりすることである。安心して所属の練習を所属に任せことができれば、例えば、井上氏の文献調査にあったように女子は直前の全体合宿をなくして所属で仕上げ、移動や普段と異なる環境によるストレスを極力排除することができる。

東野・平田（2011）らの先行研究では、アルゼンチンバスケットボールが「クラブ」「リーグ」「連盟」ともに、世界へベクトルを向けていることを明らかにしている。また、植田・平田（2018）らも、ブラジルバレーにおいて、「ブラジル連盟」「代表チーム」「プロクラブ」がともに、世界での勝利に向けたベクトルを持ち、共通の指針で強化が行われていることを明らかにしている。

筆者としては、これはチームスポーツだけではなく、柔道や空手という個人スポーツにおいても同様で、所属や競技団体、ナショナルチームとが世界へベクトルを合わせることが重要であると考ええる。

第3節 研究の限界

本研究では、リオオリンピックで金メダルを獲得した柔道関係者に柔道のオリンピックに向けた所属との強化連携のあり方について調査を行った。しかし、競技を問わず世界の強豪チームの強化策は日進月歩で科学化が進んでおり、強化に必要な要素は多岐にわたる。より具体的な強化策については今後の課題とする。

第5章 結論

オリンピック代表選手決定後の直前強化において、所属チームの指導を最大限活かしつつ、代表チームのスタッフにより抽出された課題をクリアする事が必要となる。

空手では過去のナショナルチーム強化において、様々な強化体制の変革があった。しかし代表チームの指導と所属チームの指導の効果的連携は見られないままであった。

筆者としては、所属チームの強化参画により復活した柔道代表チームの経験を踏まえ、オリンピックを直前に控えた空手オリンピックナショナルチームには、以下のポイントが重要になると考える。

1. オリンピックに向け、合宿計画や大会派遣計画、課題克服計画などの強化計画の立案。
2. ナショナルチームと選手とで共有した強化計画の所属チームコーチとの共有。
3. オリンピック直前における所属チームコーチとのオリンピックスケジュールなどの詳細な共有。
4. 大会や強化合宿中、所属チームコーチをスーパーアドバイザーとして招聘しての練習や試合の共有。
5. ナショナルチームと所属チームの調整担当ポストの創設。

柔道において、男子はナショナルチームでのトレーニング期間を長く、女子は所属チームでのトレーニング期間を長くするという、直前期間の使い方も参考の一つになる。

また、選手が極めて若く不安定さが見られる場合には、中高時代のコーチを参画させることも一策である。

謝辞

本稿執筆を通して、平田竹男教授には教室の中のみならず、様々な指導・助言をいただきました。その中には、決して大袈裟ではなく人生を変えるような気づきをもたらしてくれたアドバイスがありました。本質的な優しさに満ちた平田教授の導き、そして、本稿完成へのご指導に心から深く感謝申し上げます。

副査の中村好男先生には問題意識の核心部分への道筋を示していただき、児玉ゆう子先生には論文完成への論理的道筋のご指導を、畔蒜洋平先生には足りない視点を気づかせていただきました。有り難うございました。

本研究を行うにあたり、柔道連盟の松本先生、鈴木先生、石井先生、廣川先生、金丸先生には、答えづらい質問やお願いにもかかわらず、いつもご快諾いただき、本稿完成のために多くの時間を割いていただきました。空手連盟のナショナルチームの仲間たちも、オリンピック直前の忙しい時にお世話になりました。

また、何より大学院進学の背中を押してくれた家族、支えてくれた友人やクライアントの皆さまに心から感謝申し上げます。本研究科での経験を社会に実装できるよう努力していきたいと思います。

最後に、濃厚な一年を共に過ごした平田ゼミ社会人修士14期と、学生修士の仲間たちにも謝意を申しあげ、結びの言葉といたします。

引用文献

URL は全て 2019 年 12 月 29 日に検索

-
- ¹ 空手競技規定組手競技形競技（公益財団法人全日本空手道連盟、2019）
 - ² Kata and Kumite Competition Rules for 2020
https://www.wkf.net/pdf/rules/WKF%20Competition%20Rules%202020_EN.pdf-eng.pdf
 - ³ （公財）全日本空手道連盟 空手 2020 東京オリンピック出場選手選考
https://www.jkf.ne.jp/wp-content/uploads/2018/06/2020_selection_20180601.pdf
 - ⁴ WORLD KARATE FEDERATION ホームページ
<https://www.wkf.net/structure-country-members.php>
 - ⁵ 空手新聞（昭和 45 年 10 月 20 日号）
 - ⁶ 空手新聞（昭和 61 年 8 月 20 日号）
 - ⁷ WKF 事務総長就任のご挨拶
<http://www.wkf.jp/WKF-GS-Letter/WKF-GS-Letter-01.pdf>
 - ⁸ 公益財団法人 全日本空手道連盟定款
https://www.jkf.ne.jp/wp-content/themes/jkf-child/pdf/federation_statute.pdf
 - ⁹ 公益財団法人 全日本空手道連盟の沿革
<https://www.jkf.ne.jp/about/history>
 - ¹⁰ 空手新聞（昭和 45 年 9 月 20 日号）
 - ¹¹ 空手新聞（昭和 47 年 2 月 20 日号）・（空手新聞昭和 47 年 5 月 20 日号）
 - ¹² 空手新聞（昭和 53 年 5 月 20 日号）
 - ¹³ 空手新聞（昭和 54 年 8 月 20 日号）
 - ¹⁴ ホームメイト柔道チャンネル
https://www.judo-ch.jp/olympic/japan_judo/
 - ¹⁵ 世界の柔道強豪国における国家的強化方針に関する研究(鈴木佳治, 2016)
 - ¹⁶ ブラジル男子バレーボールが世界で勝つための強化策 ―フィジカルトレーニングの年代別指針を定めた ブラジル連盟のリーダーシップとプロクラブの協力― (植田、2018)
 - ¹⁷ 男子アルゼンチンバスケットボールの強化・育成に関する研究(東野, 2011)

¹⁸ 平成 28 年度事業報告書（公益財団法人全日本柔道連盟）
<https://www.judo.or.jp/wp-content/uploads/2015/07/0e270239548898d4c91a87bc583bdeff.pdf>

¹⁹ 井上康生全日本柔道男子監督のもと、強さを極める男子柔道（GROWING）
<https://www.toto-growing.com/interview16>

²⁰ 全柔連強化副委員長に聞く山本洋祐（近代柔道，2015 年 2 月号）

²¹ 全柔連強化副委員長に聞く増地千代里（近代柔道，2015 年 2 月号）

²² 日本柔道復権最多メダル 12 個（東京新聞，井上仁，2016 年 8 月 14 日号）
<https://www.tokyo-np.co.jp/feature/rio2016/news/CK2016081402100009.html>

²³ シリーズ・全日本強化担当コーチに聞く廣川充志コーチ（近代柔道，2016 年 1 月号）

²⁴ シリーズ・全日本強化担当コーチに聞く金丸雄介コーチ（近代柔道，2016 年 2 月号）